

令和3年度「彦根市地域学校協働活動推進事業」

地域学校協働本部事業 地域未来塾事業

実践事例集



彦根市教育委員会

目 次

1	彦根市の事業概要と経緯・取組について・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	各校の地域学校協働本部事業の取組	
	東中学校	子ども、ボランティアをお客さんにしない活動をめざして・・・・・・・・7
	城東小学校	伝統を引き継ごう～城東小マーチングバンド活動の充実に向けて～・・・・8
	佐和山小学校	「佐和山応援隊」 地域・保護者の方々とともに・・・・・・・・9
	旭森小学校	「安心と学びの保障」～保護者・地域とのつながりを深めるために～・・・・10
	西中学校	地域と共に創る「瞳輝く 明るい 楽校」(たがやす きたえる つなぐ)・・・・11
	城西小学校	児童の豊かな学びを、地域とともに創造する・・・・・・・・12
	城北小学校	地域に学び、人、もの、ことへの愛着心を育てる『城北たんけん ～このまち大好き～』・・13
	中央中学校	地域・公民館とともにある学校 SCHOOL SUPPORT・・・・・・・・14
	平田小学校	豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり・・・・・・・・15
	金城小学校	地域の力でつくる子ども達の豊かな学習活動・・・・・・・・16
	南中学校	彦根南サポートオフィス 11 年目の取組 ～継続は力～・・・・・・・・17
	城南小学校	つながりが生み出す豊かな学び・・・・・・・・18
	城陽小学校	つなげよう 子どもを育む地域の力 ～地域の力で学びを深める～・・・・19
	亀山小学校	We Love かめやま・・・・・・・・20
	彦根中学校	未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動・・・・・・・・21
	河瀬小学校	見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」・・・・22
	高宮小学校	学校力を学校に、学校力を地域力に・・・・・・・・23
	鳥居本中学校	地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動・・・・・・・・24
	鳥居本小学校	「ふるさとと共に生きる喜びを」 地域とつながる体験活動の支援・・・・25
	稲枝中学校	地域の人と共に歩む地域協働活動・・・・・・・・26
	稲枝東小学校	子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動・・・・・・・・27
	稲枝西小学校	「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして・・・・・・・・28
	稲枝北小学校	ふるさとに誇りをもち、未来にたくましく生きる子どもの育成・・・・29
	若葉小学校	「子どもたちの笑顔のために」 チームわかバンク6年目の取組・・・・30
3	各校の地域未来塾事業の取組	
	東中学校	子どもたちのやる気を応援！！・・・・・・・・31
	佐和山小学校	子どもたちが楽しく学べる場づくりを・・・・・・・・31
	西中学校	「あなたの未来のために学力の向上を目指しませんか？」 来たれ！未来塾・・32
	城西小学校	基礎・基本の定着をねらいとした学習支援・・・・・・・・32
	城北小学校	夏休みきらり学習教室 ～個別指導による学力補充学習～・・・・33

中央中学校	来てみる・やってみる 「土曜教室・てみる」	33
	子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり	34
南中学校	放課後学習「水曜ゼミ」	34
城南小学校	小一スタートカリキュラムとして中休みの学習教室	35
城陽小学校	つなげよう 子どもを育む 地域の力 ～地域の力で学びを深める～	35
亀山小学校	夏休み学習教室～基礎・基本の学力の定着を目指して～	36
彦根中学校	学びを育む学習会	36
河瀬小学校	「聞いて、聞いて。言えるようになったよ！」九九マスター教室	37
高宮小学校	地域と共に育てる子どもの学ぶ力	37
鳥居本中学校	地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾	38
鳥居本小学校	輝く笑顔 一人ひとりの「わかった！」をめざして	38
稲枝中学校	生徒が意欲的に学習に取り組める学習サポート	39
稲枝東小学校	子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」	39
稲枝西小学校	わくわく はえみ学習	40
稲枝北小学校	「できる・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学ぶ意欲を高める	40

4 資料

彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会設置要綱	41
令和3年度彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員名簿	43
令和3年度彦根市地域学校協働本部地域コーディネーター等名簿	44

彦根市地域学校協働本部事業・地域未来塾事業

彦根市教育委員会事務局生涯学習課

□事業の概要

- ・幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（地域学校協働活動）を推進し、学校と地域との連携体制の構築を図る。
- ・地域住民が自らの経験や知識を活かす場として、自己実現や生きがいづくり、地域の人材活用・活性化など、地域づくりにつなぐ。
- ・地域未来塾では、小学生・中学生を対象に放課後や土曜日等に教員OBや大学生など地域住民の協力による学習支援を実施する。この取組で学力向上を図るとともに、さまざまな要因により、学習習慣が身についていない小・中学生への支援にもつなげる。
- ・7中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校支援地域協議会に委託して実施する。

□取組の経緯・取組

- ① 平成20年度～平成22年度 3年間の文部科学省委託事業
平成20年度 東、稲枝 市内2中学校区で事業が始まる。
平成21年度 東、西、鳥居本、稲枝 市内4中学校区に拡大実施

- ② 平成23年度から 市の事業（国・県・市 1/3 ずつ負担） 市内全7中学校区で実施

- ③ 平成24年度
 - ・市内7中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）
 - ・予算 4,734,000 円（補助金 3,156,000 円）
 - ・実行委員会の開催（年3回）
 - 7月31日(火) 10:00～11:30 事業説明・実践交流
 - 11月29日(木) 14:00～16:00 研修会・実践交流
 - 3月1日(金) 14:30～16:30 実践のまとめ・振り返り
 - ・H24年度取組重点
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
 - ・学校訪問11月 7中学校訪問

- ④ 平成25年度
 - ・市内7中学校区支援地域協議会
(従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稲枝)
 - ・予算 4,583,000 円（補助金 3,055,000 円）
 - ・実行委員会の開催（年3回）
構成委員：15名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）
 - 8月2日(金) 14:00～15:30 事業説明・実践交流
 - 11月28日(木) 9:30～11:30 研修会・実践交流
 - 3月4日(火) 9:30～11:30 実践報告・振り返り
 - ・H25年度取組重点（継続）
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
 - ・学校訪問11月 7中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認


⑤ 平成 26 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会
(従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稲枝)
- ・予算 4,613,000 円 (補助金 3,075,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 3 回)
構成委員：15 名＋事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
8 月 4 日(月) 14:00～15:50 事業説明・実践交流
11 月 26 日(水) 9:30～11:40 研修会・実践交流
3 月 2 日(月) 9:30～11:30 実践報告・振り返り
- ・H26 年度の実組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・学校訪問
11 月 7 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の実組の確認
- ・平成 26 年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰
被表彰団体；彦根市学校支援地域本部
12 月 8 日(月) 文部科学省東館 3 階講堂(東京都千代田区霞が関 3-2-2)



⑥ 平成 27 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会
(従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稲枝)
- ・予算 4,633,000 円 (補助金 3,075,000 円→2,226,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 3 回)
構成委員：15 名＋事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
8 月 4 日(火) 9:30～11:30 事業説明・実践交流
11 月 30 日(月) 9:30～11:30 研修会 (TKJ 演習)・実践交流
2 月 25 日(木) 14:00～16:00 実践報告・振り返り
- ・H27 年度の実組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・学校訪問
11 月 7 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の実組の確認



⑦ 平成 28 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会 (東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)
- ・学校支援地域本部事業予算 4,632,000 円 (補助金 3,088,000 円)
- ・土曜学習支援事業予算 450,000 円 (補助金 300,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 2 回)
構成委員：15 名＋事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
7 月 12 日(火) 9:30～11:30 事業説明・実践交流
2 月 9 日(木) 9:30～11:30 今年度の実践報告 次年度に向けて
- ・コーディネーター連絡会の開催 12 月 22 日 (木) 14:00～16:00
- ・H28 年度の実組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
学校支援に学校と地域の連携・協働活動を加える。
- ・学校訪問
10 月～11 月 7 中学校訪問
学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の実組の確認



⑧ 平成 29 年度

- ・市内 7 中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 4,410,000 円（補助金 2,895,000 円）
- ・地域未来塾事業予算 2,295,000 円（補助金 1,530,000 円）
- ・実行委員会の開催（年 2 回）
 - 構成委員：18 名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）
 - 7 月 14 日（金） 9:30～11:30 事業説明・実践交流
 - 1 月 29 日（月） 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて
- ・H29 年度の実行重点
 - 学校と地域の連携・協働活動の推進
 - （学校と地域の連携強化 地域のネットワークの拡充）
- ・学校訪問
 - 10 月～11 月 7 中学校と若葉小学校訪問
 - 地域学校協働本部事業と地域未来塾事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・コーディネーター研修会および連絡会の開催
 - 12 月 22 日（金） 14:00～16:00
 - 講師 湖南市立菩提寺小学校地域コーディネーター兼学校運営協議会理事
安部 正毅 氏 「地域コーディネーターに必要なこと」



⑨ 平成 30 年度

- ・市内 7 中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 4,464,000 円（補助金 2,976,000 円）
- ・地域未来塾事業予算 2,351,000 円（補助金 1,567,000 円）
- ・実行委員会の開催（年 2 回）
 - 構成委員：18 名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）
 - 7 月 13 日（金） 14:30～16:30 事業説明・実践交流
 - 1 月 28 日（月） 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて
- ・H30 年度の実行重点
 - 地域学校協働活動と地域未来塾の推進
 - コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校の連携強化とネットワークの拡充
- ・教頭研修会
 - 7 月 9 日（月） 10:30～11:30 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動に係る研修
- ・学校訪問
 - 10 月～11 月 7 中学校と若葉小学校、稲枝西小学校を訪問
 - 地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・コーディネーター連絡会の開催
 - 12 月 21 日（金） 14:00～16:00 コミュニティ・スクールの実践報告と情報交流



⑩ 令和元年度

- ・市内 7 中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 3,336,000 円（補助金 2,224,000 円）
- ・地域未来塾事業予算 2,211,000 円（補助金 1,474,000 円）
- ・実行委員会の開催（年 2 回）
 - 構成委員：19 名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）

7月 4日(木) 14:30～16:30 事業説明・実践交流

1月 27日(月) 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて

- ・令和元年度の取組重点 地域学校協働活動のさらなる充実
「支援」から「連携・協働」へ、「個別の取組」から「総合化・ネットワーク化」へ
コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携
- ・学校訪問
10月～12月 7中学校と若葉小学校、稲枝西小学校を訪問
地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の
把握、今後の取組の確認
- ・コーディネーター研修会の開催
12月 19日(木) 14:00～16:00
滋賀県コミュニティ・スクールアドバイザー北辺禎雄氏
「コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携・協働活動について」



⑪ 令和2年度

- ・市内7中学校区(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 2,645,000円(補助金 1,763,000円)
- ・地域未来塾事業予算 1,956,000円(補助金 1,304,000円)
- ・実行委員会の開催(年2回)
構成委員:19名+事務局(学校教育課長、副主幹、生涯学習課長、主幹)
6月 18日(木) 書面会議(事業説明資料を送付) 7月 2日(木)まとめを送付
1月 26日(火) 14:00～16:00 WEB会議 今年度の実践報告・次年度に向けて
- ・令和2年度の取組重点 地域学校協働活動のさらなる充実
「支援」から「連携・協働」へ、「個別の取組」から「総合化・ネットワーク化」へ
コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携
- ・学校訪問
10月～11月 7中学校と若葉小学校、城北小学校、稲枝西小学校を訪問
地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の
把握、今後の取組の確認



⑫ 令和3年度

- ・市内7中学校区(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 2,456,000円(補助金 1,637,000円)
- ・地域未来塾事業予算 2,482,000円(補助金 1,655,000円)
- ・実行委員会の開催(年2回)
構成委員:19名+事務局(学校教育課長、副主幹、生涯学習課長、主幹)
6月 11日(木) 書面会議(事業説明資料を送付) 6月 22日(木)まとめを送付
2月上旬 書面会議 今年度の実践報告・次年度に向けて
- ・令和3年度の取組重点 地域学校協働活動のさらなる充実
「支援」から「連携・協働」へ、「個別の取組」から「総合化・ネットワーク化」へ
コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携
- ・学校訪問
10月～11月 7中学校と若葉小学校、城北小学校、稲枝西小学校を訪問
地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の
把握、今後の取組の確認

彦根市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、幅広い地域住民等の参画により、一人ひとりが当事者意識をもって「地域学校協働活動」を推進し、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民等の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■本年度の具体的活動

・実行委員会の開催（年２回）

第１回 ６月１１日（木） 書面会議、事業に関する資料配布

６月２２日（火） 書面会議結果の送付（取組交流）

第２回 ２月予定（WEB） 各本部の実践交流・次年度に向けた協議

・学校訪問（10～11月）

各支援地域協議会（委託先）およびコミュニティ・スクール導入校を訪問し、地域学校協働本部事業、地域未来塾事業、コミュニティ・スクール推進事業の状況把握と助言を行った。

■本年度の成果

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、学校と地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。
- ・コミュニティ・スクールの理解や導入促進に向けて、校長会研修会の実施、手引きの作成と説明、学校運営協議会設置に関する規則の改正を行った。
- ・社会教育委員の会議において、社会総がかりで子どもを育てるために、家庭教育の充実や企業との連携、コミュニティ・スクール導入の機運の向上に取り組んだ。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・地域未来塾の学習支援員をはじめ、事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化する傾向があるため、支援のネットワーク化を図り、人材を安定的に確保していくことが重要である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では以前から同様の役割を担う地域コーディネーターを配置していることから、地域学校協働活動推進委員は委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

来年度新たに３校で学校運営協議会を設置し、本市の学校運営協議会は８協議会（９校）となる予定である。これまでの成果と課題をもとに導入を加速していきたい。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・校内テレビ放送を活用したり、フェイスシールドを着用して対面で読み聞かせをしたりするなど、子どもたちの学びを止めないように活動を工夫している。
- ・地域未来塾では、基本的な感染防止対策とともに、個別指導による密接を避けるための座席配置や子ども達と学習支援員の間の衝立設置など、各校の状況に応じた工夫をして実施に努めている。
- ・コロナ禍で希薄になった人と人との温かな「つながり」と「感染防止」をどのように両立するかが課題である。

子ども、ボランティアをお客さんにしない活動をめざして

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	東中学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ☐ 子どもの安全確保、見守り ☒ 部活動支援 ☒ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ☐ 地域行事への参加 ☐ ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ☐ その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

☒学校・園 ☐学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ①昼休みの図書室開館
- ②特別支援学級の畑づくり
- ③特別支援学級の校外活動（地域のプレーパークで焼き芋づくり他）
- ④外国にルーツのある生徒の学習支援
- ⑤商店街の祭り（ゑびす講）での書道部の発表

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・生徒・ボランティアに運営について相談し一緒にすることを大切にしました。
- ・SNSを活用して、本部とボランティア、教員の情報共有をはかった。
- ・マスク・消毒・換気・密を避ける等の徹底



【支援学級の校外活動（焼き芋づくり）】

■ 事業の成果

①昼休みの図書室開館

ほぼ毎日昼休みの開館ができ、たくさんの生徒が利用することができた。これまでボランティアに頼りすぎていた開館について、図書委員が自分たちの仕事として自覚し、ボランティアへの感謝も強くなった。

②特別支援学級の畑づくり

校内の一画の荒地が畑となり、生徒の手で季節に応じた野菜を収穫することができた。畑のサポートとして、あらたに地域の方とつながることができた。

③特別支援学級の校外活動

地域にあるプレーパークで、地域の方の手を借りて、焼き芋づくりや山での活動が体験できた。子どもは生き生きと活動し、地域の方との新しいつながりもできた。



【ゑびす講での書道部パフォーマンス】

④外国にルーツのある生徒の学習支援

日本語での会話には不自由がないため見落とされがちな外国にルーツのある生徒を、地域の方の支援によって、学習面・生活面で支えることができた。

⑤商店街の祭り（ゑびす講）での書道部の発表

コロナで発表の場を失っていた生徒たちに、発表の場をつくることができた。コロナの影響を受けていた商店街のお祭りを盛り上げることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日々忙しい業務のうえ、コロナ対策などでさらに多忙化している学校が、地域と何かをしようとすると、さらに仕事が増えるため、なかなか新しいことに取り組もうという空気は生まれにくい。まずは学校の困りごとに目を向け、子どもや地域を巻き込んで、一緒に解決していくことで、信頼関係をつくり、次の一步を踏み出すステップにしていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員
☒その他（担任・学年主任・担当教員（PTA・部活動・委員会・日本語指導）・読書支援員・PTA役員）

報告書記入者（地域コーディネーター）

伝統を引き継ごう～城東小マーチングバンド学習の充実に向けて～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	城東小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他〔 〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・マーチングバンドの各パートの練習（毎週金曜日6校時）
- ・運動会・音楽会などの校内行事への参加
- ・あびす講などの地域行事へマーチングパレードの参加

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・コロナ感染拡大防止のため、マーチングバンドの発表の場でもあった「城まつりパレード」が中止された。そこで、商店街連盟の方や地域コーディネーターと連携し、地元商店街が行っている「あびす講」の中で、移動する区域と時間を限定して、静止演奏とマーチングパレードを実施した。
- ・6生から5年生への「引継式」に向けての取組として、楽器の体験学習ではなく6年生による楽器の紹介を実施した。
- ・「引継式」後の12月上旬から1月下旬にかけて、6年生から5年生への引き継ぎ期間を設定している。楽器ごとに学習場所を分け、密になることを避けながらボランティアの方の指導と子ども同士の交流をうまく融合させ、演奏（演技）技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を守っていこうとする心の引き継ぎも大切にしている。
- ・本校卒業生の若鮎インターン生や滋賀の教師塾生が自分の担当していたパート指導する機会をもった。

■ 事業の成果

- ・コロナ禍で発表の場が限られている中、保護者や地域の方の目の前で、子どもたちは達成感や充実感を味わいながら堂々と演奏をすることができた。演奏するすぐ近くで拍手や手拍子、励ましの声などをかけていただいたことは子どもたちにとって大きな自信につながった。また、沿道で見てくださった地域の方々も、演奏曲である校歌等を懐かしそうに聞いてくださっている姿が見られた。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染レベルが上がったこともあり、例年より学習回数が減ったが、指導ボランティアの方の熱心な指導により、子どもたちの演奏技能が向上し、意欲向上へとつながった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域学校協働本部を通じて学校と地域とともに連携していくことが大切である。
- ・地域コーディネーターと人材の発掘と情報交換に努め、「学校」という場を核に、地域の人間関係の中に「あてにする - あてにされる」相互関係を生みだせるような活動を計画する。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

マーチング学習に関する児童の感想

今日は最後のマーチング発表でした。終わったときにはやりがいがあった、とても気持ちよかったです。マーチングが終わって帰るときに、いろんな人に「すごかった。」と言われてうれしかったです。この思いを在校生に受け継いでもいい、みんな感動できるようなマーチングにしてほしいです。



【あびす講でマーチングの発表】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（地域連携担当教員）

「佐和山応援隊」 地域・保護者の方々とともに

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：45人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 ■その他〔長期休業前の印刷物の作成〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

☒学校・園
 ☐学校運営協議会
 ☒地域学校協働活動推進員等
 ☐行政
 ☐その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本年度も地域コーディネーターの発信により『佐和山応援隊』を募集していた。保護者・地域の方々45名に登録いただき、様々な教育活動を支えていただいた。

- 朝のさわやかタイムでの「ミニ英語タイム」【低学年】
- 家庭科ミシンの調整
- 校外学習の引率・見守り支援【3年生】
- 長期休業前の印刷物の印刷【全校】
- 外部学校支援団体との連携・調整
- 図書ボランティア「ポケット」の読み聞かせ【全校】および図書室環境整備
- 体力テストの活動補助【全校】
- 運動会の保護者参観受付



【 体力テストの活動補助（記録測定） 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

年度当初に、地域コーディネーターから、募集案内を発出していただき、協力内容を具体的に挙げ、支援していただける活動を事前に回答していただいた。依頼窓口は原則として地域コーディネーターにまとめ、ボランティア各位との連絡調整をしていただいた。

緊急事態宣言発令中は、協議の上、支援活動を中断していただくこととし、宣言解除とともに活動を再開していただいた。また、来校時の検温、読み聞かせ等にご協力いただく方へのマスク配布など、感染防止対策を講じながら実施した。



【 朝のミニ英語タイム（低学年） 】

■ 事業の成果

原則として依頼の窓口を地域コーディネーターにまとめているため、支援体制が分かりやすい。また、募集時に協力いただける内容を回答いただいているため、ボランティアの方にそれぞれの得意分野や専門知識を生かして支援いただくことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアの依頼については、文書での案内のほかに個人携帯で連絡を取り合って調整をしていただいている。地域コーディネーターとボランティア各位との連絡方法の確立が必要である。

コロナ禍で、授業に参加いただくなど直接的な学習支援の機会は減少傾向ではあるが、印刷支援・体力テストの活動補助・学校行事での保護者参観受付など、学校全体・教職員の業務全体へ、広い視点で支援いただく機会が増えた。『佐和山応援隊』としての支援が、本校の教育活動の充実に欠かせない力であることを児童・教職員一同実感している。

今年度の成果と反省を踏まえて、教育活動のいっそうの充実に向け、協力いただく活動の見直しや検討を行い、次年度に生かしていきたい。『佐和山応援隊』を地域や保護者の方に広く知っていただき、気軽に学校へ足を運んでもらえるように環境を整え、子どもたちの健やかな育ちの姿を、地域の皆様と共有できる学校にしていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

☐校長
 ☐教頭
 ☒地域連携担当教職員
 ☒その他（ 教務 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

「安心と学びの保障」～保護者・地域とのつながりを深めるために～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	旭森小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：53人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他〔 〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等
□行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学校図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動をしていただいている。今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、事前に読み聞かせを録画し、ビデオ放送による形態で読み聞かせを行った。子どもたちの心に響く本や季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。また、火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校して、本の整理や修理、新しい本の登録作業、図書室の掲示など、いつも子どもたちが気持ちよく本に触れることができるよう環境整備に協力していただいている。今後も、「すまいる」さんと連携しながら、読書活動の充実を図っていききたい。



【「すまいる」さんによる図書室の掲示】

○子どもたちの心を耕すためのゲストティーチャーの招聘

新型コロナウイルス感染症対策のため今年度も「密にならない学習の場づくり」等の対策をとった上で多くの学年でゲストティーチャーを招いた教育活動に取り組んできた。2年生の「モビリティマネジメント出前授業」、3年生の「警察署出前授業」、4年生の「福祉学習」、5年生の「トヨタ出前授業」6年生の「職業体験談」等を行った。どの学習活動においても子どもたちは、本物に触れることにより心を耕し、深まりのある学習を行うことができた。子どもたちの学習を支えていただいたゲストティーチャーの方々への感謝の気持ちでいっぱいである。



【3年生 警察署出前授業】

○「旭森ボランティア」の活動

6月、保護者対象にコロナ禍における学校での子どもたちの安全管理と学校の教育活動を支える①3年生の地域学習 ②6年生の職業体験談 ③5・6年生の家庭科・裁縫学習 ④水泳授業の監視 ⑤教室の消毒 ⑥トイレ掃除 ⑦マーチング指導 についてのボランティアの募集を行った。12名の登録があり、コロナの感染状況に合わせながらゲストティーチャーや水泳の監視、トイレ掃除、マーチング指導を行っていただいた。旭森小学校における新たな地域と学校の協働の大きな一歩となった。3学期には音楽学習発表会での消毒作業ボランティアを募集し連携を図る予定である。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○事前の打合せの充実

ゲストティーチャーとして来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施している。新型コロナウイルス感染症対策のため、電話やメール等による事前打合せも行った。

○保護者の授業・行事への分散参観と学校ホームページによる積極的な情報発信

保護者による密を避けながらの授業や行事の参観を実現するために、地域や学年ごとに割り振った参観を行った。また各ご家庭からの参観人数も1名と制限を行った。保護者の理解を得ながら、できる限りの教育活動の公開を行ってきた。

参観が制限される中で、日々の教育活動について学校ホームページを通じ、「写真とコメント」による学校の情報の積極的な発信に取り組んできた。多くのアクセスがあり、「一定の情報公開を行えている」という評価も得ている。今後も定期的な更新を行っていききたい。

■ 事業の成果

○密を避けるための取り組みの中で、クラス単位の交流や分散参観の実施など新たな形態の協働の在り方が模索できた。

○コロナ禍で保護者の温かな支援のありがたさをより強く感じる。「旭森ボランティア」の輪を是非広げていきたい。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○「旭森ボランティア」の輪を広げ、多様な教育活動の支援の輪を広げていく。

○Teamsなどの活用でリモートを用いたゲストティーチャーや地域の方との連携の場を探っていく。

○小さな集団での協働や関わりのあり方の方を今後も探り、活用していく。

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（主幹教諭）

地域と共に創る「瞳輝く 明るい 楽校」(たがやす きたえる つなぐ)

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	西中学校 学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人(兼務1人) ボランティア登録数：20人 ☐ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☐ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☒ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☒ 部活動支援 ☒ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☐ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☒ 地域行事への参加 ☒ ボランティア・体験活動 ☐ 郷土学習 ☐ その他 []		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・中学生の地域での貢献について
- ・コミュニティ・スクールと地域との関わりについて

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

- ・学習環境を整備するために、地域の方と職員が協働して前庭の樹木の剪定等を行った。
- ・地域の方に竹を用意していただき、生徒が七夕飾りを制作し校舎内に飾った。
- ・地域の方の所蔵の美術作品を校内に展示し、生徒の情操教育を行った。
- ・学校が主体となって地域の諸団体の方と生徒代表による「中学生の地域貢献」に向けての意見交換会を実施し、今後の地域での行事や活動に生徒が参画する足がかりとなった。
- ・地域の一人暮らしの高齢者のお宅へ訪問し、全校生徒制作の「クリスマスカード」を生徒と民生委員さんが協力して届ける取組を生徒会が主体となって行った。社会福祉協議会とも連携し、生徒の福祉学習を深めることができた。



【地域貢献に向けての意見交換会】

■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

- ・地域コーディネーターと管理職や地域連携担当教員との綿密な打ち合せを行った。
- ・昨年度の反省から、クリスマスカードを手渡す取組では「感染症対策」と「生徒と地域の方とのふれあい」の両立ができるように、手渡し方や言葉かけの方法等を工夫した。
- ・会議を持つときには、感染症対策のために、広い会場の確保、参加人数の調整など密を避けるようにした。
- ・来校いただいた地域の方の検温、健康チェックを徹底した。
- ・活動後に振り返りを行い、成果と課題を明らかにした。

■ 事業の成果

- ・地域の方からの率直な意見や感想に耳を傾けることにより、今後の活動に反映することができた。
- ・地域の方とのふれあいを通して、地域への愛着や地域を誇りに思う気持ちを育むことができ、地域貢献活動への意欲に繋がった。また、地域の方の中に、生徒との活動にやりがいを感じておられる方もおられた。
- ・クリスマスカードの取組の後に、地域の方から多くのお礼の手紙や電話をいただき、生徒も温かい気持ちになった。
- ・社会福祉協議会をはじめ、地域の諸団体と連携協働をすることにより、生徒の学習を深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・情報のネットワークを広げ、地域の人材のさらなる発掘や活動内容の広報活動をしっかりと行うことが大切である。
- ・小学校との連携についても進めていきたい。
- ・活動をした後で、子どもたちの意見や地域の方の意見を互いにフィードバックして今後の活動に繋げていきたい

■ その他(学校運営協議会との協働等)

- ・コロナ禍の中であることや、コミュニティ・スクールとして動き出したばかりのため、先を見通した活動が難しかった。次年度に向けて、年間計画の見直しを図っていきたい。



【クリスマスカード大作戦】

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☐その他()

報告書記入者(教頭)

児童の豊かな学びを、地域とともに創造する

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

- ・4年生：地域の方と一緒に福祉体験を行った。車いす体験や点字体験、手話体験を行い、地域での取組も教えていただいた。
- ・6年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通して学びを深めた。また、直弼公が愛した湖東焼き体験やお茶体験から、調べた内容を実感することができた。



【 6年生 お茶体験 】

（2）学びを豊かにする学習支援の充実

- ・1年生：生活科の学習では、チューリップの球根の植え付けに地域の方に来ていただき、丁寧に植え方を教えていただいた。
- ・5・6年生：家庭科の学習では、ミシンの学習支援に地域の方に来ていただき、ミシン系のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。

（3）地域とつながる

- ・城西学区社会福祉協議会と連携し、地域のお年寄りにお手紙を書き、各学年の学習や生活の様子を伝えた。子どもたちのお手紙への返事もいただき、お手紙を通して交流をすることができた。



【 6年生 湖東焼き体験 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・9月は緊急事態宣言が発出されていたため、直接交流することは難しかったが、少しずつ体験活動や、校外での学習を復活させてきた。しかし、どこで、どのように関わるのかを事前に綿密に打ち合わせをする必要があった。また、ボランティアで来てくださる方々の安全を守るために、子どもたちと距離をとっていただくことも、事前をお願いした。密を防ぐために、学年ではなく、学級単位で体験活動を実施してきた。

■ 事業の成果

- ・コロナ禍の中、子どもたちと地域の関わりがどんどん薄くなってきている。そのような中で、学習において地域と関わることで、子どもたちの地域を大事にしようという気持ちを育てることにつながっている。地域の方に様々な内容を教えていただき、地域のよいところを見つけ、また、それを周りの人に伝えることで、地域から学んでいるという意識を深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・中学校ブロック内の地域コーディネーターや地域連携担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、本年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換したい。
- ・学校運営協議会の設置に向け、地域コーディネーターの増員、役割分担を明確にし、様々な分野でお手伝いいただける地域ボランティアの募集を行いたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域に学び、人、もの、自然への愛着心を育てる『城北たんけん ～このまち大好き～』

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城北小学校	学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：40人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校の応援団として協議会の委員が普段の教育活動も参観する等して児童の様子を見守り、より適切な支援ができる体制づくりに努める。
- ・地域ボランティアの積極的な募集を行う等、人員の確保が必要である。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）学びを豊かにする学習支援

- ・地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、体験活動の充実を図った。
※のぞみ「野菜を育てよう」、1年生「昔遊び」、3年生「クルーザー体験」「ミシガン州立大学連合日本センターってどんなところ？」、4年生「松原内湖の話の聞こえ」

（2）読書環境の整備（読み聞かせ活動・図書室の整備）

- ・毎週1回の読み聞かせ活動や月1回の図書室の整備（時節にあった飾りや本の紹介コーナーを工夫する等）を、地域と学校が連携して進めることができた。

（3）学習環境の整備

- ・校地内の樹木の剪定や運動場の整備を協働で行った。
- ・2年ぶりに使用するプールの掃除を、地域の方に協力いただいた。



【野菜の育て方を教わる様子】



【地域の協力によるプール清掃の様子】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・本校の特色ある教育活動である「ふるさと探訪オリエンテーリング」は、コロナの感染状況から地域の方との交流を中止したが、地域の方を招聘した出前授業は、場所や時間、人数等を工夫して可能な限り実施することができた。
- ・読み聞かせ活動では、児童を集めての場の設定はできない中で、大型テレビに絵本を映し出す等、挿絵の見せ方や読み方を工夫していただき、児童は自席からでもお話の世界に浸ることができた。
- ・昨年度プールを使用していないため、掃除の協力を地域コーディネーターに相談したところ、地域の方々にも呼びかけてくださり、高圧洗浄機を使ったりまった泥を取り出したりする等、熱心に整備していただいた。その後に児童が地域の方への感謝の気持ちをもってプール掃除を行い、より美しくすることができた。

■ 事業の成果

- ・学習過程において、実際に地域の方から話を聞いたり一緒に体験活動を行ったりすることで、児童の興味・関心が高まり、学びを深めることができた。また、地域の人と触れ合うことで、地域で出会った際に挨拶する等、人とのつながりが生まれ、地域への愛着が育ってきている。地域の豊かな人材や教育力に、学校教育が支えられていることを痛感した次第である。
- ・地域の方々が支えてくださる活動について、全校放送などを通じて発信し、感謝の気持ちをもてるように努めている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域ボランティアの高齢化、次年度の見通しが十分にもてない状況であることが課題であるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層の連携を図って活動を行っていききたい。また、児童が、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会を可能な限り設定し、つながりを絶やさない努力を学校として行っていききたい。
- ・地域学校協働本部のリーダーや毎回参加いただいている方々の協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていききたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子は本校のホームページに掲載しています。 <https://www.fureai-cloud.jp/jyohoku-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学級担任）

報告書記入者（ 教 頭 ）

SCHOOL SUPPORT

1

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

☒ 学校・園
 ☐ 学校運営協議会
 ☒ 地域学校協働活動推進員等
 ☐ 行 政
 ☐ その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) P T A活動である学校清掃作業に協力を依頼し、地域コーディネーターなどが、作業の段取りについての助言をし、当日は9台のトラックで伐採した樹木や草木の搬出を手伝っていただいた。
- (2) 特別支援学級の授業で、年間を通して中庭での野菜作りを行った。キュウリや茄子や大根を育てたことに加え、一度途絶えた地元の「大藪かぶら」の再興に取り組み、様々な野菜作りの補助を行っていただいた。
- (3) 校内の環境整備事業として樹木の剪定と整備や、地域学校協働本部活動掲示板を作成・補修し啓発に取り組んでいただいた。
- (4) 「中央中博覧会」として、授業や部活動、行事などでの作品を、地域の公民館に1週間展示していただくとともに、その設営や後片付け等で支援していただいた。
- (5) 美術部や3年生の制作物を、定期的に地域の公民館に展示させていただいた。企画や設置、後片付けをはじめ、管理や運営についても公民館職員や地域の方が担ってくださっている。



【 P T A 学校清掃作業での協働活動 】



【 公民館での中央中博覧会準備 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○生徒が「地域行事」に企画・参加する取組として実施してきた夏祭りや文化祭が昨年度に引き続きコロナ禍により中止となった。さらに、地域活動へボランティアで参加してきた清掃活動の多くが中止となったが、地域の公民館での生徒作品展示や公民館事業に協力することにより、学校と公民館との連携がこれまで以上に深まり、地域ととともにある学校につながった。

■ 事業の成果

○毎年行っている活動については、支援の方々によく理解していただけており、スムーズな協働活動ができるようになってきている。地域学校協働本部事業の活動スタッフの高齢化・固定化が課題であったが、新たな人材を発掘でき協働いただいている。

○学校と地域さらに地域の公民館と連携した取組ができるようになってきた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高め、図書室の常時開館など支援の輪を広げ、活性化を図っていく。

○本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事等の教育活動への計画的な導入や連携を図っていく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

活動の様子は本校ホームページに掲載 <https://www.fureai-cloud.jp/chuo-ih-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

☐ 校長
 ☐ 教 頭
 ☐ 地域連携担当教員
 ☐ その他 ()

報告書記入者（ 教頭 ）

豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：26人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）学習環境の整備（教材園の整備、学校敷地内樹木の整備）

1、2年生の学年花壇や特別支援学級の花壇では、生活科や生活単元学習で野菜や植物の栽培を行った。その際、花壇の土起こしや畝づくり、マルチかけなどの定植準備をしていただいた。すっかり整えられた学年花壇で、スムーズに生活科などの学習を行うことができた。その後の除草作業や手入れも行っていただき、有意義な学習活動を行うことができた。

（2）本校伝統行事「全校ふれあい遠足」における安全指導ボランティア

本校が長年続けてきた「全校ふれあい遠足」において、彦根城までの行程の安全指導ボランティアをしていただいた。地域学校協働本部登録メンバーと保護者に広くボランティアを募り、合計19名のお手伝いをいただいた。各たてわり班に1名から2名のボランティアさんと本校職員が付き添うことができた。途中、交通量の多い交差点や観光客の集まる場所を通るため、各たてわり班とともに行動することで安全面をしっかりとカバーできた。

（3）豊かな言語活動の育成をめざした「読み聞かせ活動」

本校では、豊かな言語活動を育成するために、朝学習の時間を活用して国語の学習をしている。その言語学習を補足する形で、各月の第1水曜日を「読み聞かせ」の時間とし、地域ボランティアの方に絵本などの読み聞かせをしていただいている。



【全校ふれあい遠足での出発式】



【読み聞かせボランティアさん】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○本校では例年、年度当初に「平田小学校地域学校協働本部事業総会」を開催し、地域学校協働本部事業登録メンバーに集まっていただき、1年間を見通した活動計画を立てていた。しかし、昨年度に引き続き今年度当初も3密を防ぐため、メンバーの方に来校頂くことは難しいと判断した。そこで、コーディネーターと相談し、今年度も紙面による総会を開催した。年間の活動計画等についてコーディネーターと予め立案し、昨年度登録のメンバーの方へ送付し承認のお返事をいただく形で総会とした。

○地域学校協働本部事業登録メンバーから要望の多かった「子どもたちとともにできる活動を」との意見を受け、全校たてわり遠足で子どもたちと一緒に歩いている補助をお願いした。また、2学期末の「学校クリーン作戦」の期間に、お掃除ボランティアを募集し、子どもたちと一緒に年末の大掃除活動に取り組んでいただいた。延べ11名の参加をいただき、子どもたちと一緒に掃除をしながら交流を楽しんでくださった。

■ 事業の成果

○学年花壇づくりでは、普段から畑仕事をされておられる方がボランティアとして活動してくださった。畑を耕し、草を取って畝を作った上からマルチをかけてくださった。担任からは、除草作業や畝づくりなど、これまで放課後の時間を使ってしてきた学習準備をボランティアさんに行っていたいただけたので、効率的に時間を使うことができ、教員の働き方改革にもつながると感謝の声が出ていた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○この数年来、事業実施上の課題は同様で、地域学校協働本部事業登録メンバーの高齢化と固定化である。毎月のように来校して作業をしてくださっている方々は、もう何年も本校をお支えいただいている方ばかりである。なかなか新規のメンバーが増えない。それどころか、近年は健康上の理由から退会を申し出られる方が増える一方である。今後、この組織を維持させていくためにも新たな人材を発掘していくことが大きな課題である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

○ボランティアさんとの活動の様子を、学校の子どもの様子やお知らせとともにホームページで紹介している。
(<https://www.fureai-cloud.jp/hirata-hikone>)

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（地域連携担当教員）

地域の力でつくる子ども達の豊かな学習活動

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	金城小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：129人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

☒学校・園
 ☐学校運営協議会
 ☒地域学校協働活動推進員等
 ☐行政
 ☐その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）登下校の安全パトロールとあいさつ

- ・金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、あいさつの声かけやコミュニケーションをとり、子ども達の安全を見守ってくださっている。

（2）体験活動の支援

- ・3年生社会科「昔のくらし」、総合的な学習の時間「昔のあそび名人になろう」の学習活動にゲストティーチャーを、4年生学校行事「荒神山活動」、5年生家庭科「ミシンになれよう」の学習活動補助をお願いした。

（3）読み聞かせ

- ・年間を通じて、朝読書の時間に読み聞かせをしていただいた。



【3年生「昔あそび名人になろう」】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍における登下校については、マスクをしているためにあいさつの声が届きにくくなるため、昨年度より、声とともにハンドシグナルを活用したり、横断歩道を渡るときは手を挙げて渡ったりと見廻り隊の方々から率先して例を示し、コミュニケーションをとる様々な工夫を入れて取り組んでいただいた。

来校いただいた学習支援や読み聞かせ等は、例年の回数に近い状況に戻すことができた。3密対策や検温消毒等を行い、実施した。

■ 事業の成果

○通学路の見守りをしていただくことで、子どもの安全確保につながっている。また、登下校の様子など適宜伝えていただくことで学校だけでは気付かない実態を把握することができた。

○ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材を活かし、充実した学習活動を行うことができた。

○地域の様々な人々によって守り育てられていることを、子どもが感じ取ることができた。



【5年生家庭科「ミシンになれよう」】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○本事業の取組を、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知していくこと。

○子どもたちが、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会をより充実させること。

○ボランティアの高齢化に伴い、活動が広げられなくなってきたこと。また、ボランティアを増やすための効果的な働きかけがなかなかできず、世代交代がうまく進みそうにない実態があること。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

☒校長
 ☒教頭
 ☒地域連携担当教職員
 ☐その他（ ）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

彦根南サポートオフィス 11 年目の取組 ～継続は力～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	南中学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：2 人（兼務 1 人） ボランティア登録数：30 人 ☐ 学習支援（授業補助、学力補充等） ☐ 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ☐ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☒ 部活動支援 ☒ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☐ 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ☐ 地域行事への参加 ☐ ボランティア・体験活動 ☐ 郷土学習 ☐ その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

☒学校・園 ☐学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行 政 ☐その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）グリーンカーテンづくり（6～9月）

夏に涼やかさを作るグリーンカーテンづくりに取り組んで7年目。今年度も、地域のボランティアや生徒の手により、支柱立てや植え付け、摘芯や水やりなどに頑張りと、何とかグリーンカーテンをつくり上げることができた。

（2）環境整備作業（今年度は延期により2月に実施予定）

11月に学校周辺のフェンス際の草刈りを、地域貢献活動として参加の生徒、保護者・地域の方総勢80名程度で行う予定だったが、雨で2月に延期になった。2月の取組では、草刈りの他に、卒業式を見据えて、プランターの花植にも取り組む予定である。

（3）図書室環境整備

今年度は、コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を見合わせている。

（4）地域貢献活動（年間）

例年は地域ごとに中学生が参加できる活動を紹介していただき、地域貢献活動を実施していたが、今年度もコロナ禍の影響を受け、中学生が地域に積極的に出かける活動は見合わせている。



【地域の方と生徒によるグリーンカーテンづくり】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 地域と学校が連携した活動を推進するために、保護者や地域のボランティア募集チラシを配布したり回覧したりして人材確保を図った。また、校区の小・中学校の活動を紹介したボランティア便りを定期的に作成し、地域への啓発を行った。
- 校区の小学校の地域コーディネーターと担当の教員が定期的に中学校で会議を持って、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。
- 自治会や公民館などの地域の関係団体との連携については、今年度は見合わせている。

■ 事業の成果

- ボランティア便りや募集チラシ等の広報活動の成果として、毎年行っている環境整備活動が地域や保護者の方に定着してきている。今年度は、親子での申し込みが比較的多かった。
- 毎年、地域コーディネーターが校区の小学校の活動取材する中で、ボランティアの方とつながる機会ができ、小学校より結びつきが少ない中学校にも地域の方の協力をお願いすることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学区の小学校では地域への事業が浸透してきたが、中学校としてはまだまだ広める必要があり、活動を充実させるためにはボランティアの人材確保が難しい状況である。親子での活動など保護者と生徒が協働する場面を設定していくことも大切と考える。また、大学等と連携・協働も模索しながら事業を推進していきたい。
- 今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため生徒の地域行事への積極的な参加は見合わせた。今後は感染症対策を講じながら、どのように連携を進めていけばよいか、さらに協議を重ねていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 学校ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/minami-jh-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

☒校 長 ☒教 頭 ☒地域連携担当教員 ☐その他（ ）

報告書記入者（教頭）

つながりが生み出す豊かな学び

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城南小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務〇人） ボランティア登録数：80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

☒学校・園
 ☐学校運営協議会
 ☒地域学校協働活動推進員等
 ☐行政
 ☐その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

今年度も、コロナウイルス感染拡大防止から、例年行っていた活動を自粛したり、縮小したりせざるを得ないものばかりであった。そのような中で、学校と地域が話し合い、なんとか実施できた活動を記載する。

○徒競走発表会における学習支援

例年のように、全校児童と保護者が集って運動会を行うことができず、2グループの分散発表会となった。テント内で見学する児童の指導や運営など学年の教員だけではできない補助をボランティアの方をお願いできた。

○読書ボランティアによる読み語り

2学期後半より、朝のさわやかタイムに、各教室で読み語りをしていただいた。例年のように周囲に児童を集めて聞かせることができない中で、教室後方の児童にもよく内容が伝わるように、挿絵の見せ方を工夫したり、大きな動作を交えたりして読んでいただいた。

○保存会の方々による「幌踊り体験」

3年生では総合的な学習の時間に、彦根の無形文化財に指定され、地域で受け継がれている「幌踊り」を体験した。保存会の方々の手本を見ながら、実際に太鼓を身に付けてたたいたり、踊りを踊ったりした。



【 幌踊り体験 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナウイルスの感染を防ぎながら、学習のねらいを達成するためにはどうすればよいか、地域コーディネーターと学校がよく話し合った。コロナ対応について、地域の方々に理解いただくための地域コーディネーターの尽力と、学校、地域相互の綿密な準備により、安全に実施することができた。

■ 事業の成果

○徒競走発表会では、限られた時間の中で、混乱もなくスムーズに会を進めることができ、児童もカー一杯日頃の成果を発揮することができた。

○児童は読み語りに集中し引き込まれるように聞くことができた。読まれた本に興味をもち、自分でも読もうと図書室で借りる児童がいた。また、日頃から読書に関心をもち、意欲的に本を借りて読む児童の姿につながっている。

○児童のために「幌踊り体験」をなんとか実施したい、伝承したいという保存会の方々の熱意と、地域コーディネーターを通じた事前の十分な打ち合わせにより実施することができた。少人数で体験できるようにクラス単位で指導していただいたり、1回ずつ消毒作業を行ってくださったりしたことで、有意義な学びが実現した。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

本年度もコロナウイルス感染防止対策が必要となり、高齢者の方々に多く協力していただいていた本校では、特に感染が多い時期は、協力していただきにくい状況が生まれてしまった。その中でも、「幌踊り」の保存会の方の思いを聞き、新しい生活様式を実践しつつ、効果的な学習活動ができるような工夫をしていく必要があると感じた。また、本校は児童数が多く、集まれば密になる状況である。ICT等をうまく活用して、直接でなくても地域の方々とつながり、学校、地域相互に有意義な事業を推進したい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

☒校長
 ☒教頭
 ☒地域連携担当教職員
 ☐その他（ ）

報告書記入者（主幹教諭）

つなげよう 子どもを育む地域の力 ～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城陽小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：75人 ☒ 学習支援（授業補助、学力補充等） ☒ 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ☐ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ☐ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☒ 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ☐ 地域行事への参加 ☐ ボランティア・体験活動 ☐ 郷土学習 ☐ その他〔 〕			

■ 事業を考案する主体

☒学校・園 ☐学校運営協議会 ☐地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）第5学年 家庭科「ミシンでソーイング」 第6学年 家庭科「生活を豊かにソーイング」

家庭科の学習への支援を地域の方々をお願いして、昨年度から来てくださるようになった。5年生は、2学期に、ミシンを使うのエプロン製作に取り組んだ。ミシンを使うのは初めてで十分に使いこなせない児童が多い中、活動の手順や子どもたちの様子を常に把握しながら、担任とともに一人ひとりに丁寧に支援いただいた。6年生は、ミシンの使い方こそ理解しているが、縫い方の難しい箇所については技能が伴わずに苦戦していた。昨年度からの顔なじみである支援者に気軽に声をかけてアドバイスをもらうことができた。

（2）読書活動支援

地域の方々に、週に1日、図書室の本の整理や、年中行事に合わせた図書室のデコレーション、隔週で学級毎に読み聞かせをお願いしている。また、秋のお話を、ひこね市児童図書研究グループの方をお願いして、紙芝居や読み聞かせ等をしていただいた。



【 秋のお話会 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○家庭科ボランティアの方の中には高齢の方もおられたため、依頼するにあたり本校の感染防止対策について説明するとともに、状況に応じていつでも辞退いただけることをお伝えした。学習中は、ミシンの作業中は確実にマスクを着け、密を避けるため、ミシンの作業は児童一人と支援者で行うこととした。

○読み聞かせ時は、児童を近くに集めることをせず、ボランティアの方と児童との距離を取るようにした。お話会では、会場の体育館の広さや児童をどのように並べるかなど、事前に確認をしていただき、すべての児童が聞きやすくなるようマイクの音量を調節したり、大型絵本の見え方を確かめたりしていただいた。



【 ミシンボランティア 】

■ 事業の成果

○家庭科の学習では、初めてのミシンを使った学習に戸惑う児童もいた。困ったときにすぐ質問できる環境は、児童の学習意欲を高めることや技能の習得にたいへん有効であった。また、継続的に支援いただくことで、学習のねらいを理解していただきやすく、担任との連携もスムーズにでき、学習が充実した。多くの目があることで、安全面についても有効であった。

○子ども達は、毎回の読み聞かせを楽しみにしている。また、図書室に行けば読みたい本がすぐに見つけられる環境が整っていることも読書意欲の高揚につながった。お話会は、様々な工夫でお話の世界に浸ることができ、子ども一人ひとりの想像力を掻き立て豊かな心の育成にもつながった。

○身近な地域の方々に、学校の取組を知っていただき、子どもの状況を体感的に理解していただくことができた。また学習の様子をホームページで紹介することで広く周知でき、地域と学校のつながりを深めるきっかけとなった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○毎年実施している活動とその支援は今後もできるだけ継続しつつ、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアをさらに発掘していきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

○学校運営協議会の立ち上げに向けて、組織作りや活動内容について今後検討していきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者

☐校長 ☒教頭 ☐地域連携担当教職員 ☐その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

彦根市	活動名: 南中学校区地域学校協働本部	亀山小学校	学校運営協議会 : ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度: 平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数: 1 人 (兼務 0 人) ボランティア登録数: 30 人 ■学習支援 (授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

☒学校・園
 ☐学校運営協議会
 ☒地域学校協働活動推進員等
 ☐行政
 ☐その他 ()

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

(1) 栽培活動支援

毎年サツマイモの苗植え・収穫をボランティアに支援をしていただいている。今年度も1年生から3年生までの児童がボランティアの指導でさつまいもを植え、収穫することができた。

(2) 3年生 総合的な学習の時間「亀山っこ探検隊」

3年生は、毎年地域に出かけて地域を知る学習をしている。昨年度は出かける活動を自粛していたが、今年度は、感染症対策をしながら地域に出かけることにした。地域コーディネーターと担任とで事前打ち合わせを十分行い、校区を4つに分け、それぞれの地域で、公民館、蘭の栽培ハウス、太鼓部屋、神社、寺などの特徴的なものを紹介できるように、行先や日程を組んでいただいた。大変実りのある学習になった。

(3) 6年生 総合的な学習の時間「未来とつながろう」

6年生はキャリア教育の一環として様々な職種のゲストティーチャーから話を聞く学習活動を計画した。地域コーディネーターの紹介で、農業をしておられる方に来ていただき、仕事に対する思いを聞くことができた。



【 3年生「亀山っこ探検隊」 】



【 6年生「未来とつながろう」 】

■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

昨年度は地域に出かけたり地域の方を招いたりする活動を自粛していたが、今年度は感染症対策をしながらできるだけ通常の学習活動ができるよう工夫した。感染症対策のため、現地に出かける際にも少人数にしたり、広い場所を確保したりするなど工夫し、安全に実施することができた。

地域コーディネーターは、学校の事情や子どもの実態について理解していただいているので、学校と連携を密にし、交渉や話し合えてきている。また、校区内の地域コーディネーターと担当教員が定期的に会議をもって、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。

■ 事業の成果

- 地域コーディネーターに、学校のニーズに合った人材を紹介していただき、教育活動の充実につながっている。
- ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができています。
- 支援の必要な行事や学習内容の時期になると、地域コーディネーターから声をかけてもらい助言をいただいている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。
- 今後新たな活動を計画していくために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■ その他 (学校運営協議会との協働等)

学校ホームページ : <https://www.fureai-cloud.jp/kameyama-hikone/>

■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

☐校長
 ☒教頭
 ☒地域連携担当教職員
 ☒その他 (各担任)

報告書記入者 (教頭)

未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：4人 ボランティア登録数：25人 ☐学習支援（授業補助、学力補充等） ☐図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ☒学校行事支援 ☒子どもの安全確保、見守り ☐部活動支援 ☒学校周辺環境整備 ☐学びによるまちづくり ☒地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ☒地域行事への参加 ☒ボランティア・体験活動 ☐郷土学習 ☐その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

☒学校・園
☐学校運営協議会
☒地域学校協働活動推進員等
☐行政
☐その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 地域貢献活動への参加協力

- ・コロナ禍の影響により、当初予定していた各地域で中学生が参加できる活動がほぼ中止となった。

(2) 学校行事などへの参加協力

- ・入学式や体育大会などの学校行事における駐車場整理、校地内の環境整備（葉刈り、除草作業等）などの活動を行い、地域コーディネーターに依頼し、各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集した。
- ・今年度は夏（6月）秋（9月）と冬（12月）にも花いっぱい運動を行った。（年間を通して、3か月に1度のペースで実施）
- ・年間を通して、校長室および正面玄関に、観賞用の花を設置していただいた。



【 9月 第2回花いっぱい運動 】

(3) 緑のカーテンプロジェクト（取組8年目）

- ・5月上旬に支柱作り、ネット張り、プランターへの苗植えを推進員の指導のもと、生徒と地域の方、職員で実施した。環境委員会や各部活動およびボランティア部による水やりを行い、10月上旬に支柱の撤去を行った。
- ・多くの生徒に呼びかけ、自分たちのつくった緑のカーテンであるという意識づけになった。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・実施に当たっては、マスクの着用と参加生徒には事前に家庭での検温および当日の健康観察を行った。
- ・長時間の作業にならないよう、時間配分に気をつけて行った。
- ・行事ごとに地域コーディネーターと担当で、活動の反省と今後の予定について協議してきた。
- ・地域コーディネーターと連携して、自治会や各種団体に協力要請をしていただき、活動の交流を図ることができた。
- ・地域コーディネーターの顔写真を入れたポスターを作成し、活動を紹介するよう校内に掲示した。

■ 事業の成果

- ・生徒が地域の一員として地域貢献活動のボランティアに参加する中で、感謝の心を持ち、地域の良さを知る機会となった。
- ・緑のカーテンプロジェクトは取組8年目になり、生徒や地域の中で定着している。作業を通じて、自分たちの学校環境は、自分たちでよくしていく意識づけになった。
- ・花いっぱい運動や葉刈作業では、多くのボランティアの方に参加していただいたことにより、協働することの大切さや地域の方に支えられていることが実感できた。



【 11月 校地内葉刈作業 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。また、PTAの参画もより一層促していきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子を、学校通信と本校ホームページにて紹介している。
<https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

☒校長
☒教頭
☒地域連携担当教員
☐その他（ ）

報告書記入者（ 教 頭 ）

見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	河瀬小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） ボランティア登録数：65人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）「大豆はかせになろう」（3年）

総合的な学習の時間には、国語科で学習した「姿を変える大豆」で学んだことから関連させて「大豆はかせになろう」というテーマで、食育に取り組んでいる。大豆に焦点を当て、丁寧に探究的な学習を進めている。1学期より畑で大豆を育て、水やりや草抜きなどのお世話をしながら11月に収穫を行った。2学期には、大豆からできる醤油や豆腐などの学びを深める体験学習を行った。地域の方の中に「大豆はかせになろう」の取り組みに協力して下さる方がおられるので、充実した活動ができています。



【 豆腐作り体験 】

（2）「町探検」（2, 3年）

今年も2年生の生活科、3年生の社会科で町探検に出かけていった。普段何気なく見たり、通ったりしている地域ですが、この学習を機会に、これまで知らなかった河瀬の歴史や地域の良さについて学んでいる。訪問する場所は東西南北、それぞれの地域を訪ねて行き、地域の方にその施設の役割や歴史を聞く機会をもった。実際にその地域に住み、よりよい地域になるように協力し、努力されている方々のお話を聞くことは、児童の心に残る活動になっている。



【 町探検 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○大豆からどのようにして醤油ができるのか。実際に醤油づくりをされている方に学校に来ていただいた。実物を見せて製造過程をわかりやすく説明していただいた。豆腐作りでは、自分たちが育て収穫した大豆を使って体験学習を行った。

○「町探検」では、2年生では地域の様子を知り、3年生ではさらに地域の方や地域の歴史や特徴を調べるなど、自分たちが住んでいる河瀬の良さについて、改めて見つめ直すことができた。また2学年にわたって取り組むことで、より探究的に学びにつながった。

■ 事業の成果

「大豆はかせになろう」

○学習過程の中で、体験活動を多く位置づけることにより、子どもたちの興味が深まり、学びが深いものになっている。

「町探検」

○地域の方とふれあうことで、地域の良さや歴史を知るだけでなく、自分たちの地域を誇りに思う気持ちが育っている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○年度当初に、コーディネーターの方を紹介し、その役割について本校職員が理解をする場を設けることが大切である。

○支援をお願いしたい内容と日時を早めにコーディネーターの方に伝えることで、いろんな方に連絡を取っていただければ、よりよい「連携・協働」に向けての準備ができる

■ その他（学校運営協議会との協働等）

○コロナ禍の中なので、なかなか地域コーディネーターをはじめとする地域の方たちに、学校行事の案内を届けることができていない。今後、状況を見ながら学校での子どもの様子を見ていただいているようにしていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

地域力を学校に、学校力を地域力に

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	高宮小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

今年度も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ゲストティーチャーを招く機会が少なかった。しかし、子どもたちの登下校の安全確保のために活動をしてくださる方等、地域の子どもたちを学校と共に育てているという意識の高い方が多い。そこで、地域と学校をつなぐ手段の一つとして、今年度も、子どもたちの作品を通して学校と地域の繋がる機会を設けるように努めた。

【地域商店や銀行、ＪＡをつながりの場とした交流（児童作品展）】

高宮地域には、近江鉄道高宮駅に隣接した「高宮駅コミュニティセンター」があり、昨年度から、定期的に児童の作品展を開催して、地域と学校を繋ぐ場としてきた。今年度は、さらに広げ、地域の銀行やＪＡ、商店などにも協力を依頼し、児童の作品展を開催してきた。作品展は、学校と地域だけではなく、地域住民同士を繋ぐ場ともなっている。訪れた地域住民からは、児童の作品を通して「コロナ渦の中で沈んだ心に、勇気と元気をもらった。」等、温かい言葉をいただいた。また、「高宮コミュニティセンター」を利用して、今年度は校内書き初め展も開催した。地域の様々な場で児童の作品を目にすることがあり、地域と学校が身近な存在であることを認識することができた。



【ＪＡによる作品展示】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

【高宮の歴史を調べよう】

6年生の総合的な学習の時間の学習では、中山道高宮宿の歴史を学び、地域の良さや伝統を未来へ引き継いでいくことを目標にして活動を進めてきた。この学習は、本校に伝統的に続く学習であり、コロナ禍以前は、地域の歴史に詳しい方を学校に招いて話を聞いて学びを深めてきた。しかし、コロナ禍のため、密を避けることが必要となり、以前と同じように学習を進めることができなかった。そこで、子どもたちが少人数で地域に出かけ、五感を通して学ぶ機会を設けることとした。まずは、同じ彦根市にある隣の宿である「鳥居本宿」から「高宮宿」まで歩き、江戸時代に旅をした人々の目線で中山道を再発見する活動をした。歩くことにより、細かな発見をしたり、偶然出会った地域の方に話を聞いたりすることができ、深い学習につながった。子どもたちは、学校で話を聞くよりも熱心に耳を傾けたり、見学したりして、詳しく学びたいという意欲を感じた。また、歴史的に重要な拠点であったこと、かつて人通りが多く繁栄していたことを知り、改めて高宮の地域に対する思い（地域愛）を深めることができた。

■ 事業の成果

本校は、年々地元出身の保護者の家庭が減少し、地域の歴史はもとより伝統文化や行事などを知らない子どもが増えている。また、住民同士のつながりも希薄になってきている。本事業を通して、地域住民の多くの方々は、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿を喜んでくださり、好評価である。また、コロナ禍だからこそできる活動を通して、地域から学校への協力だけではなく、学校から地域へ発信することの重要性にも気づかされた。コロナ禍であるがゆえの活動を見だし、今後も継続し、さらに学校と地域のつながりを深めたいと考えている

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもたちだけではなく、保護者、教職員もコーディネーターとの繋がりが薄い。また、教職員の中には、担当以外の学年の活動を知らないものも多い。保護者（ＰＴＡ役員）、教職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。そこで、顔合わせ会や運営協議会の開催、感謝の集いなど、職員や子どもたちの思いをつなぐ機会が必要である。また、カリキュラムマネジメントに、コーディネーターの位置づけも確立できるようにすることも大切である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

今後、学校運営協議会を設置する際には、地域学校協働本部役員の参加を求めるなど、一層の繋がりを深める必要がある。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（各学年主任）

報告書記入者（地域連携担当教員）

地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：(元号)平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：1人(兼務0人) ボランティア登録数：200人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ☐ 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ☐ 学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ☐ 部活動支援 ☐ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☐ 地域行事への参加 ☐ ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ☐ その他 []			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

☒学校・園 ☐学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- 鳥居本に通ってよかったなと思えることや地域の活動の楽しかった思い出など、今の子どもたちが大人になってから振り返ってよかったなと思えるような活動をお願いしたい。
- 親も一緒に勉強できる機会があるとよい。
- 少ない人数だからこそ、みんなの意見が聞きやすい。一人ひとりの子どもたちが学ぶよい環境。先生の取組と鳥居本の良さが出ている。
- 自然に触れる体験も大切にして子どもたちの心を育てほしい。地域の持つ魅力を味わわせてほしい。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1) 男鬼森林学習

学区有林(財産区共有山林)の森林整備作業について学習し、植林や間伐作業などを実際に体験した。

森林の保全と有効な活用との調和について理解することができた。

(2) 地域との連携

中学校の前庭の葉刈り、剪定及び、芝生グラウンドの夏休みの水やりを実施していただいた。

学区文化祭において、吹奏楽部の演奏及び、書写の作品等を展示した。

(3) さんあかレンジャー

あいさつ運動を小学校で行い活躍している。10月に1年生より新メンバーを選出した。



【男鬼森林学習の様子】

■ 実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

- 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策をしっかり行って、男鬼森林学習を実施した。マスク着用、手指の消毒、三密にならない間隔等について、事前にしっかり協議し、生徒にも徹底させた。

- 地域の交流を主とする行事については学区文化祭以外は中止(宿場祭り、学区運動会)になり、感染拡大防止を図った。3学期に予定していた「お年寄り交流」も中止した。



【学区文化祭・吹奏楽部の演奏】

■ 事業の成果

- 地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらおうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。さんあかレンジャーの活躍や学区文化祭での活動に特に表れている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

- 1小学校・1中学校で、鳥居本学園として小中一貫教育を行っている。地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。一昨年度は、体育大会を小中合同で開催したが、昨年度・今年度は、コロナ禍で合同開催は実施できなかった。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☐その他()

報告書記入者(地域連携担当教員)

「ふるさとと共に生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 21 年度 地域学校協働活動推進員等数：2 人（兼務 0 人） ボランティア登録数：約 50 人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

幅広い地域住民の参画によって、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという視点にたち、鳥居本学区の特色を生かした事業の進め方について意見交換をした。地域の方の参画を期待する教育活動の内容や支援の内容、また予算執行の見通し等について共通理解した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○5・6年生家庭科 ミシン支援

10月に、5・6年生の家庭科で、ミシン学習の支援をしていただいた。初めてミシンを使う児童が多く、ミシンの糸をかけたり、線に沿って縫ったりする作業に時間を要した。ミシンそのものの扱いに慣れていないため、ひとたびミシンが止まったり、糸が絡まったりしたときに、友だち同士では解決できないことも丁寧に教えていただいた。ミシン縫いの楽しさを味わいながら、5年生はエプロン、6年生はナップザックを全員仕上げるのができ、生活に役立つ物を作る喜びを一人一人の児童が確かに感じることができた。

○読み聞かせ活動・図書室環境整備

地域の方に図書室の環境整備をお願いし、図書室の本の整理や新刊図書の紹介、年中行事に合わせた掲示物のデコレーションなどを行っていただいている。また、毎月2回（火曜日8:15～8:30）、約10名の方に学級毎の読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。本の内容や発達段階により様々な工夫を凝らしていただいております、子どもたちの豊かな心の育成につながっている。



【ミシンでソーイング】



【読み聞かせ活動】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナウィルスの感染には十分配慮しつつ、子ども達の学習活動は可能な限り停滞させないことを念頭に置き、地域の方の支援もいただくこととした。ミシン支援では、支援いただく方の配置や十分な手指消毒、確実なマスク着用等に留意いただいた。読み聞かせ活動では、子ども達が集まってお話を聞くのではなく、各自の座席に着席して密を避けるスタイルをとり、感染予防を図った。

■ 事業の成果

学校の事情に添った支援をいただき、子ども達が、地域の人・もの・自然に触れながら、体験活動を仕組むことができた。活動を通して、児童は地域の人々の温かさや、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを高めることができた。地域コーディネーターが保護者や地域の方々に広く参加を呼びかけることで、支援者の数も徐々に増えている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

建設的なアイデアや提案をいただき、地域の豊かな人材や教育力や教材に、学校教育が確かに支えられていることを実感した。次年度の見通しが十分もてない状況にあるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層密に連携して活動を行ってきたい。地域への情報発信を充実し、児童の主体的な学びを後押ししていきたい。

また、地域にある主幹団体（青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会、体育振興会など）と学校とがさらに連携を深めることで、組織的な協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

鳥居本学園ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/toriimoto-hikone/> 小中学校の様子をお知らせしています。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学級担任）

報告書記入者（教頭）

地域の人と共に歩む地域協働活動

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校 学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：5人（兼務0人） ボランティア登録数：101人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ☐ 子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ☐ 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ☐ ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ☐ その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

☐学校・園 ☐学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 地域の諸団体と共に行う地域貢献活動（稲枝駅前環境美化活動）
 - 稲枝地区青少年育成協議会と稲枝地区公民館との共催で稲枝駅前環境美化活動に取り組み、プランターへの水やりを定期的に行い、稲枝駅利用者への心遣いを感じてもらうことができた。
- 読書活動支援
 - 一学期途中から読み聞かせボランティアさんが増え、割り当て実施計画が立てやすくなった。隔週の火曜日で月2日実施している。
- 部活動支援
 - 地域運動部活動推進事業の実践研究校として、地域学校協働本部事業と連携して活動を開始した。
- 特別支援学級への学習支援
 - 本年の支援学級の生徒は8人と大所帯で、毎回活気があり楽しく活動できた。単に一緒に栽培活動をするだけでなく毎月の「作業暦」を先生と打合せをし、生徒達に見通しを持たせ「期待感」が感じられるようにした。生徒達は、下記の感想に見られるように、意欲的に楽しんで参加し多くのことを学ぶことができた。

生徒の感想

- 僕は、3年間農業をしました。1年生のときは、「あんどんづくり」「マルチ張り」などわからないことが一杯でした。でも、北川先生が優しく丁寧に教えてくれたお陰で少しずつわかるようになりました。3年間農業をして、物を育てる喜びを知ることができました。ありがとうございます。
- 農園でトマトやナスなどの夏野菜を育てました。トマトの苗を植えるとき、肥料をまくということを初めて知りました。農園に行くたびに大きくなっていてビックリしました。夏野菜を収穫しました。家で食べたらおいしかったです。
- さつまいも収穫では、スコップで掘り起こそうとしたとき、スコップでさつまいもを傷つけてしまいました。かぶとだいこん収穫では、一つ一つ丁寧に洗って先生に買ってもらいました。僕は、農業が好きです。これからも頑張りたいです。
- 僕は、農園でイチゴの苗植えをしました。やり方は難しかったけど上手に植えることができました。来年の収穫が楽しみです。
- 農園でさつまいもをつくりました。苗植えでは、茎を斜めにするのが大変でした。秋には、さつまいもの収穫をしました。雨が降らなかったのも、スコップで掘り起こして、たくさん収穫ができてよかったです。

■ 実施に当たっての工夫

- コロナ禍での活動となるので、三密を避け基本的な生活様式を守った上で、できる範囲内の活動を実施する。

■ 事業の成果

- コロナ禍で、様々な事業が制限されたり、中止されたりする中、一定の地域支援活動が実践できたことは、大変よかったと思われる。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 地域コーディネーター、ボランティア共に高齢化となっているので、支援活動を継続するには新しい人材発掘が重要である。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（特別支援学級担当教員）

報告書記入者（地域コーディネーター）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝東小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：56人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）1・2年生 「やきいも大会」（生活科）

2年生が生活科の学習で栽培・収穫したさつまいもを使ってやきいも大会を行った。学校支援ボランティアの方がいもを焼くまでの準備の仕方を教えてくださったり、当日、火の準備調整をしてくださったりしたので、子どもたちは、美味しい焼きいもを食べることができ、満足感が得られる活動になった。



【 やきいも大会 】

（2）全校 「読み聞かせ」（読書活動推進）

各学級では、月に1～2回、図書ボランティアさんに朝の活動の時間を利用して、絵本の読み聞かせをしていただいている。子どもの発達段階や教科学習との関連、季節などを考えて絵本を選んでくださっているので、子どもたちは毎回の読み聞かせを楽しみにしている。



【 読み聞かせ 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・活動実施にあたり、マスクの着用、参加者の検温、手指消毒を徹底して行った。
- ・同じ時間・場所にたくさんの人数が集まらないように、ボランティアさんの人数を制限したり、活動の時間短縮をしたりした。
- ・密を避ける手立てとして、ICT機器を活用した。
- ・読み聞かせ時に、モニターを用いたり、Web会議ツールを利用したりすることにより、密集や密接を避ける対策を講じながらも、子どもたちと講師（地域人材）とがつながれるようにして活動を進めた。

■ 事業の成果

- ・専門的な知識や技能をもった人から学ぶことで、より学びが深まっている。
- ・地域の方と出会い、様々な体験をすることで、多様なものの見方や考え方に触れることができる。
- ・地域のために活躍する人や地域のよさに気づき、ふるさとを大切に思う子どもの育成につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・コロナ禍で、地域のボランティアさんが学校に来ていただく機会が減り、地域の方のことを知らない子が増えてきているため、子どもたちがボランティアさんの顔や名前、どんな支援をしてくださっているのかを知る機会を工夫していく必要がある。
- ・ボランティアさんの活動を多くの方に周知し、ボランティアとして活動して下さる方を確保していくことが重要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

コミュニティスクールの取組を進めるにあたり、地域や保護者の理解を得られるように、情報を発信していく必要がある。
※ボランティアの方々との交流の様子を、日々の学校生活のお知らせとともにホームページで紹介しています。

(<https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/>)

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝西小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：45人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

主体的に活動できる力を伸ばすためにはどうすればよいか。

昔は、祭りなどで子どもたちにも仕事があり、年上の子が年下の子に教えたり指示を出したりしていた。学校だけでなく地域でも子どもの役割を作り、責任をもって活動する場づくりの必要性を話し合った。



【 フラワーサポーター苗植え 】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

特色ある学校づくりとして、本校では「花作り」に伝統的に取り組んでいる。全校みんなで花の世話をし、校庭は四季折々の花でいっぱいである。その中でも『メイン花壇』は我が校のシンボルであり、「子どもたちの優しい心、思いやりの心を育みたい」という地域と学校の共通の願いのもと、フラワー委員や5・6年生の子どもたちは、地域のフラワーサポーターの方々と共に、苗の植え替え、除草、水やり等の活動に取り組んだ。

また、3年生の総合的な学習の時間「はえみおたから探検隊」では、編み物・革細工・木工・切り絵について、地域の名人から技を学んだ。5年生の総合的な学習の時間「守ろう未来のびわこを」の学習では、身近な水路や湧き水（井）の調査のため地域の方とフィールドワークをした。6年生の総合的な学習の時間「はえみ歴史調査隊」では、地域の方から地域の歴史についての話を聞き、学習を広げる手立てとした。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

フラワーサポーターの方には、それぞれ距離をとり横並びになって、苗の植え替えをしてもらった。また、「読み語り」では、マスクを着用していただき、児童も間隔をとって座って聞いた。

■ 事業の成果

花のポット植えなどは、児童には難しいこともあるが、フラワーサポーターさんの支援のおかげで、きれいな花壇を作ることができた。

地域の方を招いた学習では、どの学習においても、地域の方の詳しい話を聞いたり実物のものに触れたりでき、児童にとって大変深い学びとなった。

コロナ禍において不安な児童もいる中、登下校では、地域の方があいさつ運動をしたり、安全の見守りをしてくださったりした。児童が安全に登校することができた。



【 5年生 総合的な学習の時間 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

事業を行うにあたって、日程調整や内容の打合せが難しいと感じた。そこで年度初めに、年間指導計画を基に、支援していただきたい活動と時期について、事前に地域コーディネーターの方と話す機会を設け、計画的に進めようとしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

年間3回の会議を行う。1学期は、学校から学校経営方針の説明をし、交流した。2学期は中間学校評価をもとに、子どもたちの姿や学校のあり方についてご意見をいただいた。3学期は、今年度のまとめと来年度に向けての課題を話し合う予定である。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（ 担当教諭 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

ふるさとに誇りをもち、未来にたくましく生きる子どもの育成

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝北小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：168人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○環境整備活動（目に美しく・耳に美しく・心に美しく）

まちづくり協議会ボランティアの方々の協力をいただき、5月に環境整備作業を行った。「菁莪（せいが）の池」とプールの清掃が活動内容であった。プールは、昨年度、新型コロナウイルス感染症対策によりプール水泳を実施していなかったため2年ぶりの清掃となった。かなり汚れがひどかったが、高圧洗浄機等できれいに清掃していただき、その後のプール水泳では、子どもたちが美しいプール環境の中で、意欲的に学習を進めることができた。本校の合い言葉「目に美しく・耳に美しく・心に美しく」であるが、環境整備作業により、美しい学校環境を整えていただくことができた。



【プール清掃】

○地域ボランティアの方々による学習支援

本校では、毎年多くの地域の方々に学習支援をしていただき体験学習や郷土学習に取り組んでいる。1年生・2年生は、学校園で収穫したさつまいもを使って、焼き芋体験を行った。地域の方に粃穀・煙突等の準備や火の管理をしていただき、ほくほくの焼き芋をいただくことができた。3年生は、梨園を見学したり、梨農家の方から話を聞いたりする中で、梨づくりに関する工夫や苦労について学び、改めて地元の特産品である「彦根梨」に対する興味・関心を高めることができた。4年生は、地域の方から、菅根沼干拓の様子や地域の人々の思いなどを聞かせてもらう機会をもった。そして、学んだことを「菅根沼テレビ局」として、2月実施の学習発表会で紹介する予定である。5年生は、ニゴロブナ放流体験に取り組み、これを契機にして琵琶湖環境学習において、各自が学習課題を設定し、課題解決に向けて追究しているところである。6年生は、校区にある「稲村神社」を訪れ、本殿や境内の建物を見学したり、宮司さんから話を聞いたりして、豊かな歴史を肌で感じ取り、ふるさと「いなむら」を誇りに思う心をさらに高めた。



【梨園の見学】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・地域連携担当教員を通して、ボランティアを探したり日程調整をしたりした。また、窓口を一本化し、日程が重ならないように配慮した。
- ・話の内容や人数に応じて広い場所で換気しながら実施した。
- ・検温、マスク着用、手指消毒等を実施した。

■ 事業の成果

- ・地域のボランティアの方と関わることで、子どもたちの「身近な地域の人に教えてもらった」という意識が働き、地域への愛着も深まった。また、これらの取組は、子どもたちの心を豊かに耕すとともに、本校の学校教育目標「ふるさとに誇りをもち、未来にたくましく生きる子どもの育成」に大きく寄与しているところである。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティアの高齢化が進み、多くの方が「そろそろ引退を」と言っておられ、後に続いて指導して下さる方を見つけていく必要がある。
- ・ボランティア一覧表を作成して、学習支援を依頼する際に活用した。新しいボランティアの方の加入を積極的にすすめ、人材確保にあたっていきたいと考える。

■ その他

本校は、地域の方から様々な支援をいただいて教育活動を進めている。今年度は、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の制度は取り入れていないが、「地域に開かれた教育活動」の理念のもと、より一層の地域との連携を深めるため、次年度（令和4年度）から学校運営協議会の制度の導入について協議した。その結果、次年度より学校運営協議会を発足させることとなった。

学校HPのURL <https://www.fureai-cloud.jp/inaekita-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

「子どもたちの笑顔のために」チームわかバンク6年目の取組

彦根市	活動名： 若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：60人 ☒学習支援（授業補助、学力補充等） ☒図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ☒学校行事支援 ☒子どもの安全確保、見守り ☐部活動支援 ☒学校周辺環境整備 ☐学びによるまちづくり ☐地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ☐地域行事への参加 ☐ボランティア・体験活動 ☒郷土学習 ☒その他〔土曜支援「教室」（第2、3週の土曜日午前）〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☒地域学校協働活動推進員等 ☐行政 ☐その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域学校協働本部（わかバンク）の組織について ・年間の活動内容について ・育成する児童像について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①命の学習

これまでから地域の方にお借りしている畑を学校園として、全学年で栽培活動を進めている。この活動の目的は、子どもたちが苗植えから水やり、草取り等、野菜を育てる過程を大切に、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるよう、地域のボランティアさんのご協力をいただいて進めてきた。今年度も新型コロナウイルス感染症予防を考慮して、地域コーディネーターとも入念に打合せを行い、可能な限り3密を回避しながらの畝立て、苗植え、収穫に支援をいただくことができた。

②地域の高校との協働によるプログラミング学習

これまでから地域のマイスター・ハイスクールである彦根工業高校の建設科と連携を図り、防災教育の一環として6年生が防災かまどベンチ製作に取り組んできていたが、今年度は新たに電気科とも連携を広げプログラミング学習を実施した。高校生からは、プログラミングについての話を聞き、実際にScratchを使用してプログラミングに取り組んだ。今後もマイスター・ハイスクールとの連携を図り、キャリア教育へとつなげていきたい。



【プログラミング学習】

③環境整備部による校内整備

本校は、地域の方も「若葉の森」として親しみをもっている2000本を超える樹木が敷地内に植えられている。開校当時からこの「若葉の森」の木々を学習の題材として、生活科・総合的な学習の時間、特別活動等で樹に関わる学びを深めている。そのため、今年度はこれまでから支援いただいている5部門（図書・学習・見守り・広報・土曜）に加えて新たに環境整備部を新設し、敷地内の葉刈りや剪定、花壇の整備等を進めていただくことができた。今後も自然豊かな環境を維持し、児童への学びへつなげていきたい。



【環境整備部による葉刈り】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、例年と同様の活動は実施できていない。しかしながら、地域コーディネーターとの連携を大切に、制約された状況下においても、できることは実施していく方向で準備を進めてきた。ボランティアの皆さんは高齢な方が多いため、お互いの安全を考慮し、ボランティアさんの数を厳選すること、デジタル機器を活用することなど、できるだけ直に児童と接触する機会は減らすようにしてきた。また、土曜教室（学習会）では児童の間にパーティションを設置して、感染予防を図ってきている。

■ 事業の成果

○地域コーディネーターを中心に、「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」「土曜支援」「環境支援」の6つのリーダーが責任をもって進めてくださるため、例年とは回数は減少している面はあるが、どの活動も価値ある成果を感じることができた。

○6年目をむかえ、「地域の方」から「わかバンクの方」へと児童の認知度も高まり、児童とのつながりも深まってきている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校支援メンバーの一部の方に負担がかからないよう、PTAをはじめ、様々な事業所や機関とも連携を深め、長期間を見通した継続性のある活動を進めていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

☒校長 ☒教頭 ☐地域連携担当教職員 ☐その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

子どもたちのやる気を応援！！

彦根市	活動名：放課後学習会	東中学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：図書室 年間開催日数：33日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：13人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：5人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）		・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）	
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供。基礎でつまづいている生徒には、学習支援ボランティアが寄り添い学力を向上させる。地域の人とつながる場をつくる。

■ 特徴的な学習支援内容

学習教科は自由。生徒が決めたことをやり遂げられるような支援を心がけている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

「東中学校区地域学校協働本部」が主体となり、学校と相談しながら運営。生徒の自主性を尊重し、成績に関係なく、参加するという意識のある生徒の参加を受け入れている。

生徒個別の学習ファイルを作成し、学習終了後に、生徒に学習の振り返りやボランティアへの連絡・メッセージ等を記入してもらい、ボランティアとの交流に活用している。コロナ感染予防のため、生徒・ボランティアともにマスクの着用を徹底。座席の取り方、換気等に配慮。全学年を対象に考えていたが、コロナの感染拡大のため、3年生のみ実施。

■ 事業の成果

生徒とボランティアとの関係もよく、生徒は積極的に質問するなど、良い雰囲気の中

で開催できている。生徒ははじめに主体的に取り組んでおり、成績にも反映されている。ボランティア同士の関係も良く、より良い教え方などを相談しあいレベルアップされている。生徒の希望で、水曜日以外に追加開催することもあった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学力や家庭環境など、本当に支援が必要な生徒が参加しやすいように、担任をはじめ教職員との連携や情報共有をしていきたい。

報告書記入者（ 地域コーディネーター ）



【 学習会の様子 】

子どもたちが楽しく学べる場づくりを

彦根市	活動名：さわやま教室	佐和山小学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：教室 年間開催日数：24日（開催ペース：月3～4日） 平均参加人数：17人		開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） 学習支援員等 平均人数：6人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）		・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）	
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

佐和山小学校高学年児童の国語・算数の学力の向上を目指して学力補充をしている。

■ 特徴的な学習支援内容

学校（担任）と連携をとり、児童の一人一人の弱みを把握した後、学習計画を立てる。

小グループを作り、学習支援員が小グループごとに学習指導を行う。子どもたちの弱みを補充するため、子どもたちも達成感が得やすい。また、終盤20分程度は宿題を一緒にすることで、今学習しているところのつまづきを指導している。予習も視野に入れて宿題指導をしているため、翌日の授業への意欲も高まることが多い。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

児童も学習支援者も、検温等による体調管理は当然のこと、教室への出入り時には必ず消毒を義務付けている。また机と机の間隔を広くとったりしている。

■ 事業の成果

始めは戸惑いながら通い始めた児童も、わからなかったことがわかるようになり、この教室に通うことに前向きになってきた。自分でわかるようになったこととわからないことを自覚し、積極的に質問するようにもなった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

人材を確保することがなかなか難しい。本年度は確保できたが、来年度・再来年度については不安もある。



【 学習指導の様子 】

報告書記入者（ 地域コーディネーター ）

「あなたの未来のために学力の向上を目指しませんか？」 来たれ！未来塾

彦根市	活動名：学力補充教室	西中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：理科室・被服室		開始年度：平成 26 年度	
年間開催日数：25 日（開催ペース：5 月～2 月 週 1 日）		地域学校協働活動推進員等数：2 人（兼務 0 人）	
平均参加人数：22 人		学習支援員等 平均人数：8 人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ） ・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他（ ） ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO 等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

- ・学力補充を目的とした学習教室を開催した。放課後の時間帯や夏季休業中の時間を活用して学習支援員が学習指導を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・学習支援員の人数を多くすることで、個別の学習支援を充実させた。
- ・各自の学習課題を自身が準備することで目的意識を明確にして、学習意欲を高めた。
- ・受験を目前に控えた 3 年生の希望進路の実現に向けて学力の向上を目指した。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・全学年を対象にして、自主的に取り組める希望者を募って実施した。
- ・コーディネーターを 2 人、部屋を 2 つにして、密を避ける対策を行った。
- ・指導前に、学習支援員の検温と体調チェック、手指消毒を行った。

■ 事業の成果

- ・学習支援員として地域の方と大学生が協働する中で、お互いの交流が深まった。
- ・一人ひとりの生徒の学力に応じた個別の学習支援を実施できた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、学習支援員に高齢の方を動員することが心配される。

■ その他

- ・学習支援員の更なる増員を図り、個別指導の時間を増やしたい。



【 放課後学習会 】

報告書記入者（ 教頭 ）

基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

彦根市	活動名：放課後バックアップ教室	城西小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：教室		開始年度：平成 24 年度	
年間開催日数：17 日（開催ペース：週 1 日）		地域学校協働活動推進員等数：1 人	
平均参加人数：人		学習支援員等 平均人数：3 人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ） ・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他（ ） ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO 等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

- ・算数科を中心に、基礎・基本の定着に向け、個別指導を主とした教室を 4～6 年生の希望者を対象に年間通して 17 回開催した。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・プリントやドリルの内容を基本とし、個別指導を主とした学習支援をしている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・下校時、確実に迎えが来られるかどうかを確認し、迎えが可能な児童のみ参加することとした。

■ 事業の成果

- ・個別に対応することができるので、児童の困り感に寄り添い、理解しているかどうかの見取りが的確にできた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・より充実した指導となるよう、多くの学習支援員の確保が急務となる。



【 6 年生のバックアップ教室 】

報告書記入者（ 教頭 ）

夏休みきり学習教室 ～個別指導による学力補充学習～

彦根市	活動名：夏休みきり学習教室	城北小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：教室 年間開催日数：3日（開催ペース：年3日） 平均参加人数：60人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）		・教室の持ち方：□平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ）	
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他			

- 活動の概要と目的
 - ・実施日時：夏季休業中の3日間、（7月21日（水）26日（月）27日（火））、いずれも8:30から10:00まで
 - ・目的：算数科を中心とした、個別の学力補充
- 特徴的な学習支援内容
 - ・算数科に絞り、個々の児童の苦手とする課題や児童が高めたいと考える内容について、補充指導や問題演習を行った。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
 - ・担任より個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心とした。
 - ・感染防止対策として、健康状態の確認、マスクの着用、入退室時の手指消毒、換気を行い、自教室の自席での学習とした。
- 事業の成果
 - ・地域の方々の協力のおかげで個別対応が可能となり、つまづきを的確に把握し、スモールステップできめ細かに支援することができた。本学習を通して、子どもたちは「分かった!」「できた!」という思いを実感し、学習への意欲を高めることができた。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
 - ・さらに充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めていきたい。

報告書記入者（教頭）

来てみる・やってみる 「土曜日曜教室・てみる」

彦根市	活動名：土曜日曜教室・てみる	中央中学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：理科室 年間開催日数：10日（開催ペース：月2日） 平均参加人数：15人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：13人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）		・教室の持ち方：□平日放課後実施 ■土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）	
・学習支援員等の属性：■企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 ■NPO等関係者 □その他			

- 活動の概要と目的

子ども達への学習補助はもちろん学習支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来になりたい姿を見つけることをねらいとしている。
- 特徴的な学習支援内容

1対1または子ども2人に指導者1人とし、学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切に、学習の動機付けとなるように、子どものやる気を尊重した学びの場をつくらせている。支援員やボランティアとの対話や学習後の交流を楽しみにしている子どもも多い。2時間程度の学習であるが、学習の休憩時間を交流の時間として設定し、支援員と子どもたちとの交流の機会を設けている。毎回のしめくくりの時間に子どもに活動の振り返りをさせて、ここでの学びが他の活動や時間に広がるようにしている。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

全校生徒に案内を配布し、希望を募っている。部活動や各種検定の時間と重ならないように配慮して行っている。感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクをつけて学習するとともに教室内にパーテーションを設置している。毎回、実施後に地域コーディネーターが中心となり学習支援員、学校関係者で集約会議を行い、子どもの関わりの質の向上につなげている。
- 事業の成果

個別指導により、つまづきを的確に把握しながら学習支援を行い、基礎学力の定着を図ることができている。また、週末に学習に集中し充実した時間を過ごすことができることから、学習意欲の向上や学習方法の定着にもつながっている。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員やサポーターの確保、企画・運営ができるコーディネーター確保が必須である。



【感染対策を講じた上での実施】

報告書記入者（教頭）

子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり

彦根市	活動名： 学び育ちLL教室	中央中学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：中地区公民館		開始年度：平成24年度	
年間開催日数：44日（開催ペース：週1日、月4回）		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人）	
平均参加人数：14人		学習支援員等 平均人数：10人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）			
・学習支援員等の属性： ☒ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☒ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。自主的な学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。学習の補充を行い、自信をもたせる。

■ 特徴的な学習支援内容

マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切に、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。固定した時間割は定めず、子どもの状況に応じて、人間関係づくりの向上を目指して、交流を目的とした活動を取り入れている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

中央中学校の土曜教室と同時期に全校生徒に案内を配布。また、活動状況はフェイスブックページを設け発信していることから、近隣学区の子どもたちの参加もある。

感染予防対策として健康確認と入室時の手指消毒を行い、マスクを着用して学習し、教室内では間隔をとって行っている。

■ 事業の成果

子ども個人のモチベーションにあわせた学習を進めることで主体的に取り組む習慣ができてきている。また不登校傾向や特別支援の配慮を要する子どもも参加し、気分転換や自分を見つめる時間になり、地域での居場所づくりになっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材整備と教材の保管場所確保が課題である。



【 LL教室の様子 】

報告書記入者（ 教頭 ）

放課後学習「水曜ゼミ」

彦根市	活動名： 水曜ゼミ	南中学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：南中学校区		開始年度：平成29年度	
年間開催日数：11日（開催ペース：週1日）		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人）	
平均参加人数：15人		学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）			
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

○放課後学習「水曜ゼミ」（11～2月）は、3年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身につけるために、プリントを使って学習している。基本週に1回のペースでとしているが、今年度は12月に集中講座として4日間連続で開催した。

○地域未来塾事業を活用した夏休み補充教室は、今年度は実施していない。

■ 特徴的な学習支援内容

学習支援員は、教員や地域の住民、近隣に在籍している大学生が中心となり、個別の学習支援にあたっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容プリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

水曜ゼミは受験を控えた3年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。地域コーディネーターが活動を紹介したボランティア便りを作成し学習支援員の確保にあたっている。

■ 事業の成果

家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携して学習支援員が確保できる体制にしていきたい。また生徒用タブレット端末の活用についても検討を進めていきたい。

報告書記入者（ 教頭 ）

小スタートカリキュラムとして中休みの学習教室

彦根市	活動名：中休み学習教室	城南小学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：1年生各教室 年間開催日数：24日（開催ペース：週2日） 平均参加人数：15人		開始年度：平成31年度 地域学校協働活動推進員等数：0人 学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）		・教室の持ち方：□平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 ■その他（中休み）	
・学習支援員の属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

小1スタートカリキュラムの一環として、学力補充が必要な1年生を中心に、中休みを利用して学力補充教室を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

国語と算数を中心に、授業中に課題が終わらなかった内容の学習支援。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

授業中の課題が時間内に終わらなかった児童に声をかけるようにした。昨年度までは、夏期休業中に学力補充教室を行っていたが、今年度は、その期間が登下校の道路の工事と重なり実施しにくく、今年度のような形をとり学力補充を行うことにした。

■ 事業の成果

小1に絞ったことで、小1スタートカリキュラムの一環として取り組むことができ、ひらがな・かたかな・足し算・引き算といった基礎的な学習の補充ができた。例年のような夏期休業中ではなく実施できたことで、授業内容に沿ったタイムリーな学習支援になった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員の方に中休みだけ来てもらうというのは申し訳なく、結局は前後の時間の学習支援にも関わってもらうことになったため、地域未来塾と他の事業との時間や謝金の調整が必要になり、事務処理が煩雑になった。

報告書記入者（主幹教諭）

つなげよう 子どもを育む 地域の力 ～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名：学力補充教室	城陽小学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：各教室 年間開催日数：2日（開催ペース：夏季休業中） 平均参加人数：90人		開始年度：平成31年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） 学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）		・教室の持ち方：□平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ）	
・学習支援員の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

1学期終業式の午後と夏季休業初日の午前それぞれ2時間実施した。基礎的な学力を高めることをねらいとし、3年生以上の児童を対象として、前学年で学習した算数科の内容を中心に補充学習を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

募集時に、発展的な学習は一切せず、前学年の補充学習を行うことを周知し、個別指導が望ましい児童を中心に実施できるようにした。教師が用意したプリントの中から、各自が選んで取り組んだ。そのため、一斉指導ではなく、つまづきに個別に対応するようにした。学習支援員の方々には、各学年に分かれてもらい、教師とともに児童への個別の支援をしていただいた。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

趣旨を明記したうえで保護者あてに文書を配り希望者を募ったり、個別指導が望ましいと考えられる児童に参加を促す声かけをしたりすることで参加を呼びかけた。密を避け、教室を分散させて行った。

■ 事業の成果

学習内容を限定したことにより、基礎、基本の積み上げが不十分と思われる児童にとって、個別対応の支援は心強く、「分からない」「教えてほしい」と声をあげやすい雰囲気があった。自身のつまづきに対して意欲的に向き合い学習をすすめることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

実施した時期は、大学の授業がある時期で、近隣の大学生のボランティアを募ることに大変苦労した。地域の方々など、他にも支援いただける支援員の確保に努めたい。

報告書記入者（教頭）

夏休み学習教室～基礎・基本の学力の定着を目指して～

彦根市	活動名：夏休み学習教室	亀山小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所： 年間開催日数：3日 平均参加人数：100人		開始年度：令和2年度 地域学校協働活動推進員等数：0人 学習支援員等 平均人数：6人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ） ・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ） ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

- ・夏季休業中の3日間（7月26日・27日・28日）、いずれも9：00から10：30まで実施した。
- ・基礎・基本の学力の定着を目的としている。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・基礎・基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまづきには個別に対応できるようにし、子供が理解できるよう支援した。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・1学期末の個別懇談会の機会に、学習教室に参加させたい児童（基礎・基本の定着が十分でないと思われる児童）の保護者に趣旨や方法を説明し、理解を得るようにした。
- ・教室の消毒や換気、室内温度をこまめに確認し、感染症の拡大防止に努めた。

■ 事業の成果

- ・それぞれの教室に担任以外の教員（支援員）がいることで、個別指導をしたりプリントの採点をしたりして、効果的に学習を進めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・昨年度は、感染症拡大防止の観点から最低限の人数での学習教室になったが、今年度は、地域コーディネータの声かけで学習支援員を確保し、よりきめ細かな支援ができた。今後も同様の規模で学習教室を実施していきたい。



【 夏休み学習教室の様子 】

報告書記入者（ 教頭 ）

学びを育む学習会

彦根市	活動名：彦根中地域未来塾	彦根中学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：被服室 年間開催日数：31日（開催ペース：10月以降週2回、夏季休業） 平均参加人数：12人		開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：0人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ） ・教室の持ち方： ☒ 放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ） ・学習支援員等の属性： ☐ 企業人 ☐ 行政職員 ☒ 元教員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

毎日の授業だけでは、十分に学力が定着しない生徒も多く、基礎学力の定着のためには、学力補充が必要となる。しかし、一人では家庭学習に取り組めなかったり、何を学習してよいのかわからなかったりする生徒も多い実情があるため、地域の方々や大学生等の協力を得て、一人ひとりの学力に応じた学習を個別の対応で進め、学習習慣と学力の定着を図る。

■ 特徴的な学習支援内容

* 夏季休業中の補充学習および質問教室

全学年で、生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が数名で学習支援を行っている。

* 3年生の放課後学習会

10月から毎週火曜日・木曜日を基本にして、生徒が持参する学習教材のわからない問題や、数学と英語等の基礎定着プリントに対する支援を、学習支援員と教員が数名程度で行っている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- * マスクの着用と使用する教室には消毒液の設置と使用後の消毒作業を実施している。
- * 学習支援員を確保するため、教育実習生に声掛けした。

■ 事業の成果

- * 家庭学習に取り組めない生徒が、学習支援員に積極的に質問するなど、短時間ではあるが、まじめに意欲的に取り組んでいた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- * 学校の立地条件から、学生の学習支援員が集まらず、確保が難しい現状にある。

■ その他

- ・活動状況は、本校HPにて掲載している。<https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/>



【 3年放課後学習会 】

報告書記入者（ 教頭 ）

「聞いて、聞いて。言えるようになったよ！」 九九マスター教室

彦根市	活動名：2年生九九マスター教室	河瀬小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：2年生教室		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：6日（開催ペース：週2日）		地域学校協働活動推進員等数：0人（兼務0人）	
平均参加人数：23人		学習支援員等 平均人数：1人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☒ その他（九九が暗唱できたか確認する）			
・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☒ その他（休み時間）			
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☐ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

- ・2年生児童のかけ算九九の定着を図る

■ 特徴的な学習支援内容

- ・個別の学習支援
- ・プリントを採点する
- ・かけ算九九の定着を図る

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・本校に教育実習にきた地元在住の大学生に声をかけ、学習支援を依頼した。
- ・2年生の最重要課題であるかけ算九九の習得に特化して、学習進度に合わせて、クラスごとに支援をしてもらった。

■ 事業の成果

- ・従来は担任が1人で暗唱できているか確認をし、カードに合格シールを貼っていたが、2人体制で聞くことができ、短期間に効率的に習得することができた。
- ・児童も担任以外の先生にも聞いてもらえるということで、意欲的に取り組み、定着を図ることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・本来ならば、夏休み学習補充教室を実施予定であったが、コロナ禍の影響で補充教室は中止となり、代替でこの九九マスター教室を実施した。
- ・今後も、学習補充教室以外にも、学年・教科・活動を特化して、学習支援をしていただく機会を模索していきたい。



【九九マスター教室】

報告書記入者（ 地域連携担当者 ）

地域と共に育てる子どもの学ぶ力

彦根市	活動名：学力向上教室	高宮小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：教室		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：7日（夏季休業中、2学期末）		地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人）	
平均参加人数：55人		学習支援員等 平均人数：7人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）			
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☒ その他			

■ 活動の概要と目的

学習習慣の定着とともに、学習に自主的、意欲的に取り組もうとする態度を養うため、夏季休業中や2学期末の放課後に希望者を対象とした学力向上教室を実施。

■ 特徴的な学習支援内容

学校の学習内容の振り返りとともに、地域教材を利用した生活に密着した内容を取り入れた。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍のため、密を避け、前半後半の2グループ制とする。なお、前半は、全学年を基本コースとし、後半は、1、2年生は基本コース、3～6年生は応用コースとする。

■ 事業の成果

少人数の学習の機会としたことで、個々の学力に応じた支援ができた。また、学習支援員を地域住民から募ったことにより、地域未来塾だけではなく、他の学習にも協力をいただけるようになり、継続して子どもたちの学力支援をいただくことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

長期休業中と2学期末のみの、単発的な学習支援活動の機会であったため、年間を通した継続的な活動にする必要がある。

■ その他

学習支援員として、大学生や高校生、中学生などを招くことができれば、子どもたちのキャリア教育にもつながると考える。



【 学力向上教室 】

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名： 学力補充教室	鳥居本中学校 学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：教室 年間開催日数：12日（開催ペース：夏季休業） 平均参加人数：6人 ・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ） ・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ） ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☒ その他		開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：2人

■ 活動の概要と目的

○生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、教員と一緒に実施している。

■ 特徴的な学習支援内容

○基礎的な学力の補充

長期休業中に出される英語科、数学科、国語科、理科、社会科の課題（ワーク、タブレットドリル）の基礎的な問題やわからない問題を中心に、個別に教えている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○参加者の募集については、希望者だけでなく、学力の補充が必要な生徒にも教員が声をかけている。

○実施にあたっては、マスクを着用し、密を避け、個別に指導をする。

■ 事業の成果

○生徒は、わかりやすく教えてもらっていると好評である。

○地域の方も、中学生に学習を教えることで喜んでもらえる充実感がある。

○学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○学習支援をしてくださる地域の方が、限定されている。支援をしてくださる地域の方をどのように確保するかが、大きな課題である。

○平日の放課後等には実施できないかを検討中である。



【 夏休み補充教室 】

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

輝く笑顔 一人ひとりの「わかった!」をめざして

彦根市	活動名： 夏休み国語算数教室	鳥居本小学校 学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所： 年間開催日数：3日 平均参加人数：50人 ・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ） ・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ） ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他		開始年度：令和2年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：5人

■ 活動の概要と目的

夏季休業中の3日間（7月21日、26日、27日）いずれも、8:30から10:20まで実施した。

国語科・算数科の基礎基本の学力の定着を目的とした。

■ 特徴的な学習支援内容

基礎基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきには個別に対応し、「わかった」を実感できるよう、きめ細かな支援をする。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

保護者の希望、または個別指導が望ましいと判断した児童への担任からの呼びかけにより参加を募った。

会場となる教室の消毒や換気、室内温度等をこまめに確認し、感染症の拡大や熱中症発症の防止に努めた。

■ 事業の成果

学習そのものに苦手意識があり、個に応じた支援が必要な児童も参加しているため、スモールステップの学習活動を仕組み、褒め認める言葉がけにより成就感や達成感を実感できるよう支援した。その結果、一つ一つを積み上げることの大切さに目を向ける児童の姿も見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

よりきめ細かな対応が充実するよう、支援いただける方の確保に努めたい。

報告書記入者（ 教頭 ）

生徒が意欲的に学習に取り組める学習サポート

彦根市	活動名：地域未来塾	稲枝中学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：多目的教室、図書室 年間開催日数：24日（開催ペース：7月から2月 週1回・月4回） 平均参加人数：平均9.3人		
開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） 学習支援員等平均人数：3人		
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 ■その他（期末三者懇談会時） ・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		

- 活動の概要と目的
 - ・自ら学ぼうと意欲のある生徒への学習支援を行い学力向上を図る。
- 特徴的な学習支援内容
 - ・7月、夏休み、2月までの毎水曜日、保護者懇談会の期間に→3年生を対象に定期考査や高校入試に向けた学習支援
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
 - ・生徒の募集→3年生の生徒及び保護者に、質問教室の趣旨を説明して募集
3年生対象の高校入試に向けた質問教室は、希望者はもとより、学習塾に通っていない生徒や受験対策を必要とする生徒に勧める。
 - ・コロナ対策→当初の参加希望者が多かったが、日々の参加者は平均10名程度なので、密にならないように席の間隔を取って実施してきた。
- 事業の成果
 - ・参加者が、質問教室に「来てよかった、わかった」と感じている。
 - ・個別に丁寧に指導してもらい「わかった」という思いを持ち、自信を深めることにつながった。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
 - ・地域未来塾の講師の発掘が大変である。
 - ・学校と地域コーディネーターの打合せが重要となる。



【個別支援の様子】

報告書記入者（地域コーディネーター）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」

彦根市	活動名：かがやき教室	稲枝東小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：音楽室 年間開催日数：15日（開催ペース：月2～3日） 平均参加人数：18人		
開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） 学習支援員等平均人数：4人		
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ） ・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他		

- 活動の概要と目的
 - ・5・6年生の児童を対象に、6月より月に2～3回程度の学力補充の時間を計画した。
- 特徴的な学習支援内容
 - ・事前に児童がつまづきを感じている学習内容を何種類か選び、プリントを作成する。児童は、自分の課題に合った学習内容を選択し、学習を進める。学習支援員は児童の困り感に応じて、個別の学習支援を行っている。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
 - ・5月に年間を通して受講できる希望者を募った。さらに、担任より個別指導が望ましいと考える児童に参加を促した。
 - ・児童が学習内容を選択できるように、複数の学習内容を選びプリントを作成している。また、選んだ学習内容によって児童を少人数のグループに分けている。
- 事業の成果
 - ・算数科の基礎的な学習内容を復習することで、自信をもたせ学ぶ意欲を向上させた。児童が自分に合った学習内容を選択できるようにすることで、意欲的に学習に取り組むことができた。
 - ・同じ内容の学習をする少人数グループに分けることで、子ども同士が困り感を共有し教えあったり、学習支援員が同じところにつまづいている子どもを同時に指導したりすることができた。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
 - ・今後も取組を進めるにあたり、学習支援員さんの人材確保が必要である。また、学習支援員さんと子どもとの関係づくりが課題である。



【学習支援の様子】

報告書記入者（地域連携担当教員）

わくわく はえみ学習

彦根市	活動名：ホップタイム	稲枝西小学校	学校運営協議会：■有 □ 無
主な活動場所：		開始年度：（令和）2年度	
年間開催日数：11 日（開催ペース月 1 日）		地域学校協働活動推進員等数：0 人	
平均参加人数：20 人		学習支援員等 平均人数：4 人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）			
・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）			
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 □大学生 □NPO 等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

- ・確かな学力の定着をめざす学習。
- ・苦手な学習内容の復習をする学力補充。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・一つの学級を2グループに分け、各グループに2～3人の指導者を配置して実施した。課題については、様々な難易度のものを用意し、自分で選んで問題を解き進められるようにした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・下校の人数が少なくなるため、基本的に児童全員の参加とした。児童によって、自分の力量に合わせた力がつけられるように、プリントの工夫をした。

■ 事業の成果

- ・分からない問題をすぐに聞くことができたり、励ましの声かけをしてもらったりすることで、意欲的に取り組む子が多かった。学級全体で苦手とする内容を復習することで、学力の定着を図ることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・指導してくださる方の人材確保が難しいので、早めに声かけをする必要がある。



【 ホップタイム 】

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

「できる・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学ぶ意欲を高める

彦根市	活動名：ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：2年教室・4年教室		開始年度：平成28年度	
年間開催日数：50日（開催ペース：週2日）		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人）	
平均参加人数：5人		学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）			
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

少人数による個別指導で「できた・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学ぶ意欲を高められるようにする。

■ 特徴的な学習支援内容

課業日の月曜日（1～3年）水曜日（4～6年）、学期ごとに参加児童を募集し定員を8名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数科を中心に宿題をしたり個に応じた課題（プリント等）を準備して実施したりし、個別の進度で学習を進める。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにしている。また、個別指導が有効と思われる児童へは事前に保護者に呼びかけ、参加を促している。希望者が多数の場合は、支援を必要とする児童に絞り、4～7名という少人数で実施している。感染症対策として、普通教室において、常時換気をするとともにマスクを着用しながら、密にならないように席を離して実施している。

■ 事業の成果

集団での学習では身に付きにくい児童への個別の支援が充実し、大変効果があった。学習に苦手意識のある児童にとって、分からないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「できる・分かる」という実感をもちやすい。また、個別に苦手な分野に絞って復習等に取り組むことで理解が進み、児童の学習意欲も高まった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

支援の必要な児童が参加を希望しない場合があり、募集の仕方を工夫する必要がある。効果があることを知らせ、児童へ声をかけるとともに、懇談会などを通して保護者に直接声をかけていきたい。また、学習支援員と担任との打合せを充実させるなど、連携を一層密にしていく必要がある。

報告書記入者（ 教頭 ）

彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会設置要綱

（名称）

第1条 この委員会は、彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

（目的）

第2条 実行委員会は、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（以下「地域学校協働活動」という。）を推進することを目的として設置する。

（任務）

第3条 実行委員会は、市域での概ね次の各号の事項について調査・研究・協議を行うものとする。

- (1) 事業全体の企画・運営・調査研究に関すること
- (2) 地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、学校支援ボランティアの養成及び連絡調整に関すること
- (3) 事業成果の報告に関すること
- (4) 事業の評価に関すること
- (5) その他必要と認められること

（組織）

第4条 実行委員会の委員は、次に掲げる者のうちから 25 名以内で組織する。

- 2 彦根市教育委員会教育長が委嘱する行政関係者、学校教育関係者、PTA関係者、社会教育関係者（地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、学校運営協議会関係者）等をもって構成する。

（役員）

第5条 実行委員会に委員長 1 名、副委員長 1 名を置く。

- 2 委員長は、実行委員会を代表して会務を総括する。副委員長は、委員長を補佐する。

（任期）

第6条 委員の任期は、就任した日から当該年度の 3 月 31 日までとする。ただし、欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 実行委員会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 会議は、委員長が必要と認めた者に参加を依頼することができる。
- 3 必要に応じて教育委員会内関係職員による連絡会議を開くことができる。

(部会)

第8条 実行委員会に、必要に応じて専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会の委員は、実行委員会の委員のほか委員長が必要と認めた者をもって充て、委員長が指名する。
- 3 専門部会に関する必要な事項は、委員長が定める。

(庶務)

第9条 実行委員会の庶務は、彦根市教育委員会事務局生涯学習課において処理する。

(雑則)

第10条 この要綱に定めるものの他に、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成 31 年(2019 年) 4 月 1 日から施行する。

令和3年度彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員名簿

順不同敬称略

	氏 名	役 職
1	富永美砂穂	東中学校区 地域コーディネーター
2	藤井 和磨	西中学校区 地域コーディネーター
3	北村 直久	中央中学校区 地域コーディネーター
4	木ノ内江以子	南中学校区 地域コーディネーター
5	米田 紀代子	彦根中学校区 地域コーディネーター
6	森 正治	鳥居本中学校区 地域コーディネーター
7	北川 浩志	稲枝中学校区 地域コーディネーター
8	小林 朱実	若葉小学校 地域コーディネーター
9	柴田 雅美	NPO法人 Links 代表
10	磨谷絵美子	彦根市PTA連絡協議会 事務局長
11	松田 暁郎	東中学校 教頭
12	樋口 保男	西中学校 教頭
13	東野 了賢	中央中学校 教頭
14	小磯 浩司	南中学校 教頭
15	永井慎太郎	彦根中学校 教頭
16	柴田 雅章	鳥居本中学校 校長（校長会）
17	西山久美子	稲枝中学校 教頭
18	野吉溪 守	若葉小学校 教頭
19	矢田 充宏	城北小学校 校長（校長会）
20	宮崎 良雄	学校教育課 課長
21	加藤 由紀	学校教育課 副主幹
22	久保田雄介	生涯学習課 課長
23	磯崎 久和	生涯学習課 主幹

令和3年度 彦根市地域学校協働本部地域コーディネーター等名簿

No.	氏 名	所属・役職等	対象校
1	富永 美砂穂	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立東中学校
2	田中 二三代	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立東中学校
3	馬 場 敬 子	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立城東小学校
4	角 寿賀子	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立城東小学校
5	安河内美沙子	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立佐和山小学校
6	橋 野 賀 代	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立佐和山小学校
7	岡 崎 み か	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立旭森小学校
8	林 尚子	東中学校区 地域コーディネーター	彦根市立旭森小学校
9	藤 井 和 磨	西中学校区 地域コーディネーター 西中学校運営協議会委員	彦根市立西中学校
10	宇野 富美代	西中学校区 地域コーディネーター	彦根市立西中学校
11	尾 田 英 昭	西中学校区 地域コーディネーター	彦根市立城西小学校
12	小 山 茂 隆	西中学校区 地域コーディネーター 城北小学校運営協議会委員	彦根市立城北小学校
13	北 村 直 久	中央中学校区 地域コーディネーター	彦根市立中央中学校
14	柴 田 雅 美	中央中学校区 地域コーディネーター	彦根市立中央中学校
15	小 野 忠 夫	中央中学校区 地域コーディネーター	彦根市立平田小学校
16	西 村 重 晴	中央中学校区 地域コーディネーター	彦根市立金城小学校
17	木ノ内江以子	南中学校区 地域コーディネーター 若葉小学校運営協議会委員	彦根市立南中学校
18	寺 村 和 代	南中学校区 地域コーディネーター	彦根市立南中学校
19	永 井 嘉 和	南中学校区 地域コーディネーター	彦根市立城南小学校
20	西 崎 文 雄	南中学校区 地域コーディネーター	彦根市立城陽小学校
21	岩 野 幹 夫	南中学校区 地域コーディネーター	彦根市立亀山小学校
22	平塚 寿和子	彦根中学校区 地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・高宮小学校
23	馬 場 英 一	彦根中学校区 地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・高宮小学校
24	澤 田 勘 一	彦根中学校区 地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・河瀬小学校
25	米田 紀代子	彦根中学校区 地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・河瀬小学校
26	森 正 治	鳥居本中学校区 地域コーディネーター 鳥居本学園運営協議会会長	彦根市立鳥居本中学校
27	松 浦 近 子	鳥居本中学校区 地域コーディネーター 鳥居本学園運営協議会委員	彦根市立鳥居本小学校
28	小嶋 麻衣子	鳥居本中学校区 地域コーディネーター	彦根市立鳥居本小学校
29	北 川 浩 志	稲枝中学校区 地域コーディネーター	彦根市立稲枝中学校
30	藤 田 治 夫	稲枝中学校区 地域コーディネーター 稲枝西小学校運営協議会会長	彦根市立稲枝中学校・稲枝西小学校
31	田 村 宗 久	稲枝中学校区 地域コーディネーター	彦根市立稲枝東小学校
32	馬 場 清 行	稲枝中学校区 地域コーディネーター 稲枝西小学校運営協議会委員	彦根市立稲枝西小学校
33	川 瀬 保 雄	稲枝中学校区 地域コーディネーター	彦根市立稲枝北小学校
34	小 林 朱 実	若葉小学校 地域コーディネーター 若葉小学校運営協議会委員	彦根市立若葉小学校

(敬称略)

令和3年度

「彦根市地域学校協働活動推進事業」

地域学校協働本部事業・地域未来塾事業

実践事例集

発行 令和4年(2022年)3月

彦根市教育委員会事務局生涯学習課

TEL0749-24-7974 FAX0749-23-9190

E-mail syogai@mx.hikone.ed.jp